保育者論	1年　後期 卒必　幼必　保必	講義2単位	担当教員名	千　葉　　剛

授業テーマ及び到達目標

① テーマ：　保育者の存在意義と専門性、その役割・使命について理解する。

② 目標　・　保育者の役割と倫理について理解する。（３）

・　保育士国家資格・幼稚園教諭免許状の制度と根拠法を理解する。（３）

・　保育士の専門性について理解する。（３）

・　保育者の協働について理解する。（３）

授業の概要

保育の現場は、子どもの保育を基本としながらも、保護者への対応や支援、小学校教育や地域とのつながり、特別なニーズをもつ子どもへのきめ細やかな配慮や援助など、保育者に求められることは多岐にわたる。子どもや子育て環境の変化に伴い保育者に求められる役割がどのように変わり、どのような専門性が求められているのかを理解し、保育者としてのあるべき姿を考え深めていく。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	保育者になるということ	・オリエンテーション　・「育てられる人」から「育てる人」へ
2	保育の本質①	・保育とは何か　・養護と教育の一体的展開
3	保育の本質②	・保育者の子ども観・保育観　・保育の主体性と省察
4	保育実践と保育者	・幼稚園における子どもとのかかわり　・保育者の役割
5	保育実践と保育者	・保育所における子どもとのかかわり ・幼保連携型認定こども園における子どもと保育者
6	豊かな環境をつくる保育者	・環境と保育　・子どもの生活を支える環境　・環境の再構成と活動の展開・発展
7	保育者の協働	・保護者との協働について　・保護者支援について ・地域との連携について
8	小学校の先生と連携する保育者①	・幼稚園・保育所等から小学校への段差とは　・「接続期」という捉え方
9	小学校の先生と連携する保育者②	・子ども達の交流活動　・大人たちの連携
10	学び,成長する保育者	・保育者になるための学び　・専門性・資質向上の取り組み　・学び続ける保育者
11	保育者のキャリア形成と生涯発達①	・幼稚園における保育者　・保育所における保育者
12	保育者のキャリア形成と生涯発達②	・幼保連携型認定こども園における保育者　・児童福祉施設における保育者
13	法令で定められた保育者の責務	・法令と保育者　・教育・保育の基本に関する法令　・免許状・国家資格の法令　・園内事故と保育者の法令責務
14	歴史から学ぶ保育者のあり方	・保育者の誕生期とその歴史的背景につていて
15	子育て環境と保育者の役割の変化	・子どもを取り巻く環境の変化と保育者に期待される役割 ・めざす保育者像　・これまでの学習のまとめ
定期試験	１５コマの講義終了後に筆記試験を実施する。	
テキスト	榎田二三子・大沼良子・増田時枝『シードブック改訂　保育者論　第２版』建帛社	
参考図書	幼稚園教育要領解説・保育所保育所指針解説書	
教員の評価方法	授業態度(１０％),レポート・提出物状況(２０％),小テスト・定期試験(７０％)の総合で評価	
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①予定授業についてテキストを熟読し、学習内容を確認するとともに疑問点をまとめておく。(１時間) ①学習プリントやテキスト等で前時（前時まで）の復習を行い、学習内容の理解を深める。(１時間) ②授業の自己評価として振り返りシートに学習のまとめをする。	

教育原理	１年　　前期 卒選　幼必　保必	講義２単位	担当教員名	鈴　木　永　二

授業のテーマ及び到達目標（学習成果）

① テーマ：教育の基本的概念、理念、歴史や思想、社会的事項、課題、学校と地域との連携、学校安全の理解

② 目標　１　教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。（３）

２　教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。（３）

３　教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解する。（３）

４　社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。（３・６）

５　学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。（３）

６　学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。（３・６）

授業の概要

教育の基本的概念、教育の理念、教育の歴史や思想、これまでの教育及び学校の営みの変遷について学習する。また、現代の学校教育に関する社会的事項についての基礎的な知識を身に付け、関連する課題を考える。さらに、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。

授業計画

コマ(回)	項　　目		内　　容
1	Ⅰ 子どもの教育の基礎理論	教育とは何か	○人間形成と教育　○発達過程と個性　○子ども家庭福祉の関連
2		子どもの教育の今日的課題	○「生きる力」　○基本的生活習慣　○自尊心や有能感
3		家庭教育	○家庭教育の機能　○法制度　○家庭教育の現状と課題
4		学校教育	○学校教育の機能　○学校教育の法制度　○行政改革 ○幼小連携　○保育者の専門性　○現状と課題
5		社会教育と生涯学習	○社会教育と生涯学習の概念と機能　○法制度 ○社会教育・生涯学習の現状と課題
6		カリキュラム	○カリキュラムの捉えと類型　○教育の方法や指導法具体例 ○カリキュラム開発
7	Ⅱ 子どもの教育の歴史と現在	子ども観と教育観の変遷	○古代・中世の子ども観・教育観
8			○近代の子どもの発見と教育可能性と権利主体としての子ども
9		世界の子どもの教育の歴史と現在	○学校の誕生とその歩み　○公教育制度としての学校の誕生と普及
10			○現代の世界の学校
11		日本の子どもの教育の歴史と現在	○日本の教育の源流　○日本の近代学校制度
12			○大正期の新教育運動と昭和初期の教育　○戦後の教育制度
13	Ⅲ 子どもの教育のこれから	学校と地域との連携、学校安全への対応	○学校と地域との連携　○学校安全への対応
14		子どもの教育とマネジメント	○教育の経営学　○子どもの教育と評価 ○ＰＤＣＡサイクルと子どもの教育マネジメントのこれから
15		子どもと教育専門職	○教育専門職の重要性 ○実践力の向上

定期試験	前期試験で実施する。
テキスト	「子どもの教育原理」　北野　幸子　編著（建帛社）
参考図書	幼稚園教育要領解説（文部科学省）　保育所保育指針解説（厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
教員の評価方法	学習への関心・態度（２０％）、課題の取り組み状況（２０％）、定期試験（６０％）から総合的に評価する。
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①　毎受講後、授業内容を振り返り、与えられた課題や自己課題についての学習を深める。（週１時間程度） 次回の授業内容について、テキスト・参考図書を中心に予習をし、授業の準備をする。（週１時間程度） ②　課題に対しては、各個人へのコメントや全体への解説を行う。

社会福祉Ⅰ	１年　前期 卒選　幼選　保必	講義2単位	担当教員名	髙　橋　裕　彦

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：　保育者に必要な社会福祉論について理解する。

② 目　標　・社会福祉の理念を理解する。（３，７）

・社会保障制度と社会福祉制度を理解する。（３，７）

・社会福祉の実践内容について考える。（３，８）

授業の概要

社会福祉とは、社会保障制度の一種類であり、保育者として重要な知識の1つである。社会福祉が制度化された歴史、思想、理念及び実際を学ぶことにより、社会福祉の実現に自ら参加していく意義と意欲を高めることを本講義の目的とする。社会福祉を学ぶことで、自身が社会福祉に参加していくことを促し、また実践例を学びながら保育者としての自覚をもつように講義を深めていく。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	私たちが生きる社会	・日本の社会状況を知り，社会福祉が自分自身の生活に深く関係あることとして興味・関心をもつようにさせる。
2	子どもと家族の福祉①	・妊娠・出産にかかわる制度や社会福祉と関連法について学ぶ。
3	子どもと家族の福祉①	・子どもの養育にかかわる制度について学ぶ。
4	子どもと家族の福祉②	・子ども家庭福祉にかかわる行政機関，施設について学ぶ。
5	子どもと家族の福祉②	・子どもの権利，社会的養護の仕組み，子ども家庭福祉の法律について学ぶ。
6	社会保障	・社会保障の仕組み，年金制度の仕組みについて学ぶ。
7	社会保障	・医療保険の仕組み，保育者と社会保障について学ぶ。
8	障がい児・者福祉	・障がいのとらえ方，障害児・者福祉の考え方について学ぶ。
9	障がい児・者福祉	・障がいの種類，障がい児・者福祉について学ぶ。
10	地域福祉	・地域福祉や地域福祉を支える期間・団体について学ぶ。
11	ソーシャルワーク	・ソーシャルワーク，保育相談支援，保育者とソーシャルワークについて学ぶ。
12	低所得者の福祉	・生活保護の歴史，生活保護の仕組みについて学ぶ。
13	低所得者の福祉	・その他の低所得者福祉、保育者と低所得者の福祉について学ぶ。
14	高齢者福祉	・介護保険制度と介護サービスについて学ぶ。
15	高齢者福祉	・利用者保護，年金制度と死亡届について学ぶ。

定期試験	有
テキスト	図解で学ぶ保育「社会福祉」【萌文書林】
参考図書	実践から学ぶ社会福祉　【保育出版社】
教員の評価方法	受講態度(10%)，提出物(20%)、定期試験(70%)の総合で評価
準備学習等履修上の留意点	授業前の準備＝前時に予告したテキストの熟読。授業後の指導＝毎時学習プリントを配布するので復習の励行　各１時間程度

社会福祉Ⅱ	１年　後期 卒選　幼選　保選必	講義2単位	担当教員名	佐　藤　憲　治

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：　保育者に必要な社会福祉論について理解する。

② 目　標　・社会福祉の制度や実施体系等について理解する。（３）
・社会福祉における相談援助について理解する。　（３，４，８）
・社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。（３）
・社会福祉の動向と課題について理解する。（３）

授業の概要

社会福祉Ⅱでは社会福祉Ⅰで学んだ基本的な理論を基に実践について学びを深めていく。社会に出れば必ず様々な問題が起こる。人々の抱える生活問題や生活課題を個人の責任とするのではなく，社会全体の枠組みからとらえ，それらの問題にどう対処していくか，保育士の立ち位置からの社会福祉に特化し，関係者のニーズに対応した事例を中心に考えていく。

そして，本授業が社会の現実に目を向けて取り組む福祉･保育の実践者への道を歩むためのベースとなるようにする。

授業計画

コマ(回)	項　目	内　容
1	社会福祉と わたしたち	・わたしたちのライフコースと社会福祉
2	社会福祉の理念と 歴史的変遷	・社会福祉の歴史的変遷 ・社会福祉の理念と概要
3	現代社会の生活問題 と社会福祉１	・現代社会の生活問題 インターネットによる発信を考える
4	現代社会の生活問題 と社会福祉２	・社会福祉の現代的課題 社会の同性婚の状況
5	社会福祉行政と 実施体系１	・社会福祉の行政機関、組織
6	社会福祉行政と 実施体系２	・社会福祉の現代的課題
7	社会福祉と 社会保障の制度１	・社会福祉と社会保障 ・狭義の社会福祉制度
8	社会福祉と 社会福祉の制度２	・公共一般施策、公的扶助 ・関連制度の概要
9	社会福祉の専門職	・社会福祉の専門職とその資格要件 ・社会福祉専門職の倫理
10	共生社会の実現と 障害者施策１	・共生社会の理念 新型出生前診断のこれから
11	共生社会の実現と 障害者施策２	・障害児・者福祉の展開 津久井やまゆり園事件
12	子ども家庭福祉と 社会福祉１	・子ども家庭福祉とは ・子どもと人権
13	子ども家庭福祉と 社会福祉２	・子ども家庭福祉の制度と支援
14	少子高齢社会と 子育て支援１	・少子化政策から子ども子育て支援へ パタハラという壁
15	少子高齢社会と 子育て支援２	・高齢者福祉の展開

定期試験	有
テキスト	社会福祉とわたしたち【萌文書林】
参考図書	学ぶ・わかる・みえる「保育と社会福祉」【みらい】
教員の評価方法	受講態度（１０％）、提出物（２０％）、定期試験（７０％）の総合で評価
準備学習等履修上の留意点	授業前の準備＝前時に予告したテキストの熟読。授業後の指導＝毎時学習プリントを配布するので復習の励行　各１時間程度

子育て支援	2年　後期 卒選　幼選　保必	演習1単位	担当教員名	鈴　木　永　二

授業のテーマ及び到達目標（学習の成果）

① テーマ：保育者として専門性とされる相談支援の内容と方法を理解し、保護者に対する相談、助言等の技術を習得する。

② 目標　・　子育て支援の目的と原則について理解する。(3,8)

・　保護者、家庭への支援の必要性を理解する。(3,8)

・　子育て支援の実際を学び、知識と方法を理解し、相談、助言、各支援方法の技術を習得する。(3,4,5,8)

・　関係機関や職員間との連携について理解し、ソーシャルワークの技術を習得する。(3,4,5,8)

授業の概要

保護者への相談支援は、保育者の業務であり、その専門性を生かして子育て支援の役割が、特に重要なものあることを踏まえ、保育に活用され応用される相談支援の内容と方法、技術の習得を目的に学ばせる。その際、子どもの保健、社会福祉との科目との関連性を考慮する。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	子育て支援とは	・オリエンテーション　・子育て支援の制度的基盤
2	子育て支援の意義	・子育て支援が求められる社会的背景　・子育て支援の独自性 ・子育て支援において保育所・認定こども園等が果たす役割
3	子育て支援の 基本的価値・倫理	・子どもの最善の利益の尊重　・子どもの成長への気づきと子育ての喜びの促進 ・保護者における子育てを自ら実践する力の向上　・子どもの生活の連続性
4	子育て支援の基本的姿勢	・家庭や地域の社会資源とのとの連携　・保育者の専門性の活用　・相互信頼関係の促進 ・保護者との相互理解促進　・個人情報及びプライバシーの保護と秘密保持
5	子育て支援の基本的技術	・子育て支援のプロセス ・子育て支援に役立つコミュニカ―ション技法
6	園内・園外との連携と 社会資源	・園内の職員間の連携　・さまざまな子育て支援者との連携 ・子育て支援ネットワークの活用　・保育者が行う子育て支援の限界
7	記録・評価・研修	・記録で用いられるさまざまな文体　・アセスメントで用いられる記録方法 ・早期発見、早期対応のために活用される記録
8	日常会話を活用した 子育て支援	・送迎時のやり取り　・トラブルの際のやり取り　・ ・面　談　・電話連絡
9	文書を活用した 子育て支援	・連絡帳　・おたより　・手紙とメール
10	行事などを活用した 子育て支援	・保育参加　・保護者懇談会　・行　事 ・自主活動
11	環境を活用した 子育て支援	・環境を通した子育て支援の意義　・子育て支援にふさわしい環境の特性 ・環境を通した子育て支援の方法
12	地域子育て支援拠点 における支援	・保育所、認定こども園などで実施されることが多い地域子育て支援サービス ・地域子育て支援拠点を利用する保護者の心理　等
13	入所施設における 子育て支援	・施設における親と子をつなぐ支援　・入所施設を利用する保護者の傾向 ・入所施設における支援の方法
14	通所施設における 子育て支援	・通所施設を利用する保護者の傾向　・通所施設における支援方法
15	まとめと今後の課題	・まとめ・課題解決型演習(事例)

定期試験	実施する。
テキスト	二宮祐子　「子育て支援」　萌文書林
参考図書	柏女霊峰・橋本真紀・西村真実他『保護者支援スキルアップ講座 - 保育者の専門性を生かした保護者支援 - 保育相談支援（保育指導）の実際』ひかりのくに　2010.　小林育子『演習　保育相談支援』崩文書林　2013
教員の 評価方法	受講態度・演習参加（20%）、定期試験（80%）の総合評価
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①社会福祉・子どもの保健を復習すること。 ②個別対応などでフィードバックをしていく。

子ども家庭福祉	２年　後期 卒必　幼必　保必	講義２単位	担当教員名	早　坂　俊一郎

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ　:多様化した社会における児童家庭福祉論の必要性について理解する。

② 目　標　・現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷にについて理解する。（３，５，８）

・多様化した社会と児童家庭福祉の現状を理解する。（３，６，８）

・子どもの人権、専門機関が存在する理由を探究し、保育者としてそれを理解する。（３，８）

・子ども家庭福祉の専門家となるため、方法と実践を学び、それを理解する。（３，８）

授業の概要

こどもは、未成熟のまま社会に生まれる。生存し成長するのに保護を必要とする状態で出現する。まず、母親や家族、その 近くにいる人々の世話を必要とし、親族や専門家などの育児におけるサポートを期待する。さらに、その子を育てるために専門家の指導が必要とされるが、子どもが自立するまでには十数年も要するのである。この間に行われる社会の援助が児童家庭福祉である。その理念と実践は、ひとりの子どもにとってのみならず社会にとって重要な資源でもある。

授業計画

コマ(回)	項　目	内　容
1	子ども家庭福祉の理念と概念	・児童福祉法と児童憲章　・児童家庭福祉の理念
2	子ども家庭福祉の現況	・少子化について　・現代社会と児童福祉
3	子ども家庭福祉の歴史	・エリザベス救貧法と児童家庭福祉　・日本の児童家庭福祉の変遷
4	子ども家庭福祉と保育士	・児童福祉法と保育士　・保育所の役割　・児童の権利に関する条約
5	子ども家庭福祉の制度と法体系	・日本国憲法と保育所　・児童福祉法と制度について
6	子ども家庭福祉行財政と機関	・子ども福祉に関わる諸機関について
7	母子保健と児童の健全育成	・母子保健の現状とその施策について　・健全育成とは何か
8	保育サービス	・保育サービスの現状と課題について
9	要養護児童へのサービス	・社会的養護サービスの内容と課題について。
10	障害児へのサービス	・障害の定義と障害児福祉サービスの概要と課題について。
11	少年非行への対応	・少年非行の現状とプロセスについて　・不登校支援
12	ひとり親家庭へのサービス	・母子及び寡婦福祉法について　・ひとり親家庭への対応（課題）
13	子ども虐待の防止とその対応	・こども虐待の現状とその予防対策について
14	子ども家庭福祉と福祉援助	・子ども家庭福祉でのソーシャルワークのプロセスについて
15	子ども家庭福祉の担い手	・子ども家庭福祉に関係する職員とその役割について

定期試験	１５コマ終了後実施する。
テキスト	児童家庭福祉　福田公教/山縣文治編著　ミネルヴァ書房
参考図書	吉田眞里　児童の福祉を支える児童家庭福祉　萌文書林
教員の評価方法	学習への関心態度(10%)、課題・レポート（30%）試験結果(60%)を総合して評価する
準備学習等履修上の留意点	授業前の準備＝前時に予告したテキストの熟読。 授業後の指導＝毎時配布している学習プリントを利用した復習の励行

保育原理	１年　前期 卒必　幼必　保必	講義2単位	担当教員名	小　松　督　記

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：　保育とは何か、保育に関わる基本原理について学ぶ。

② 目標　・　保育の意義・目的について理解する。（３）

・　保育の内容と方法の基本について理解する。（３，７）

・　保育に関する法令・制度を理解する。（３）

・　保育の思想・歴史的変遷について理解する。（３）

・　保育の現状と課題について理解する。（３）

授業の概要

保育原理は、保育の本質・目的に関する科目である。保育の意義・目的、保育の基本、保育に関する法令・制度、保育の思想・歴史的変遷、保育の現状と課題について学ぶ。保育者になるための基本科目であることを念頭に、保育とは何か、保育者としてどうあるべきかについての理解を深めていく。

授業計画

コマ(回)	項　目	内　容
1	「保育」とは何か	・オリエンテーション　・保育とは何か　・保育と教育、養護の関係について
2	保育の基盤としての子ども観	・子ども観とは何か　・保育者の子ども観　・子ども観と保育の内容・方法について
3	子どもの理解から出発する保育	・保育における子ども理解　・子どもの発達とまなざしについて
4	子どもが育つ環境の理解	・環境による保育とは　・子どもが育つ環境の基本　・環境構成の考え方　他
5	保育内容・方法の原理	・保育の基本と保育内容，方法について　・保育の一場面から考える
6	保育の計画と実践の原理	・保育における計画　・保育の計画にはどのようなものがあるか　・保育の質の向上に努める計画を
7	保育における健康・安全の原理	・健康，安全の重要性　・子どもの健康支援　・食育の推進　・環境及び衛生管理と安全管理
8	多様な子どもと育つ保育	・多様性が求められる時代の保育の在り方　・多様な子どもを受け入れる園の体制
9	保育の歴史に何を学ぶか	・なぜ保育の歴史を学ぶのか　・子ども主体の保育　・子どもを中心とする保育を導いた思想家たち
10	保育の歴史に何を学ぶか	・日本における保育制度の移り変わり　・戦後の幼児教育制度と保育実践
11	保育者に求められるもの	・保育者になるということ　・「子どもの声を聴く」ことから　・保育者として共に学ぶ
12	現代の子育てと子育て支援	・子育て支援の必要性　・子育て支援が求められる背景　・子育て支援施策と子育て支援の場　他
13	保育の現状と課題	・すべての子どもに保育を　・保育の独自性と重要性
14	保育の現状と課題	・保育の質の維持と向上
15	「保育原理」の原理を問う	・保育とはどういうことか　・我らの内なる勉強主義　・倉橋惣三の「育ての心」を読む　他

定期試験	１５コマ終了後実施する。
テキスト	渡邉英則・高嶋景子・大豆生田啓友　編著『新しい保育講座1　保育原理』ミネルヴァ書房
参考図書	保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説
教員の評価方法	学習への関心態度(20%)、課題・レポート(20%)、定期試験(60%)の総合で評価する。
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①予習＝テキスト，幼稚園教育要領、保育所保育指針を中心に予習を行う。（週1時間程度） 復習＝毎時間配布した学習プリント及びテキストによる復習を行う。（週1時間程度） ②フィードバック＝課題・レポートには、個人へのコメントと全体への解説を行う。

社会的養護Ⅰ	1年　　前期 卒選　　幼選　　保必	講義2単位	担当教員名	千 葉　剛

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：　日本における社会的養護の現状と課題の理解

② 目標　・　子どもの社会的養護の理念や歴史について理解する。（１・３）

・　子どもの社会的養護の概要及び制度と法体系について理解する。（３）

・　児童福祉施設での子どもの養護の運営と管理及び援助者について理解する。（３・８）

授業の概要

・ 近年、子どもや家庭・地域社会を取り巻く環境の変化や保護者の就労等の多様化により、保育現場は業務量の拡大業務内容の多様化がもたらされている。虐待に代表されるような児童・家庭問題の多様化、複雑化に対応するため、保育士の専門性、施設の組織的対応、地域機関との連携などが求められる。こうしたことから、この科目では、特に社会的養護の基本的な理論として、社会的養護の意義や歴史、社会的養護と児童福祉の関連および児童の権利擁護、社会的養護の制度や体系、自立支援への取組など保育者として基本的な社会的養護の知識を学ぶ。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	イントロダクション	社会的養護Ⅰの科目で学ぶこと
2	第１章 社会的養護の基本的考え方	子どもの社会的養護の理念と概念
3		社会的養護の基本的原則
4	第２章 子どもの社会的養護の歴史	欧米にける児童福祉観の変遷と子どもの社会的養護
5		日本にける児童福祉観の変遷と子どもの社会的養護
6	第３章 子どもの社会的養護の概要	子どもの社会的養護の体系 施設養護の概要
7		施設養護の概要（心身に障害を抱える子どものための施設） 施設養護の概要（情緒・行動に問題を抱える子どものための施設） 施設養護の概要（その他の施設）　　家庭養護の概要
8	第４章 社会的養護の制度と法体系	社会的養護の取り組み（家庭における養育、施設における養育と支援）
9		社会的養護を支える法律（児童福祉法、その他の法律）
10	第６章 児童福祉施設の運営管理と援助者	児童福祉施設の役割と運営基準・財源、安全管理
11	第７章 施設養護の職員	職種理解とチームワーク　　児童養護専門職の役割 児童福祉施設援助者としての人間性と専門性　保育士等の倫理と責務
12	第１１章 虐待問題と子どもの養護	増え続ける児童虐待
13		児童虐待と家庭・施設の実態と支援
14	第１２章 今後の課題と展望	施設の小規模化と地域とのかかわり
15		社会的養護の課題と展望（親権の問題と貧困問題）
定期試験	１５コマの講義終了後に筆記試験を実施する。	
テキスト	改訂子どもの養護　－社会的養護の基本と内容－　松本峰雄・和田上貴昭　編著　建帛社	
参考図書	改定　社会的養護　春見静子・谷口純世・加藤洋子　編著　光生館	
教員の評価方法	授業態度（１０％），レポート・提出物状況（２０％），小テスト・定期試験（７０％）の総合で評価	
①準備学習等履修上の留意点②課題に対するフィードバックの方法等	①予定授業についてテキストを熟読し、学習内容を確認するとともに疑問点をまとめておく。(1時間) ①学習プリントやテキスト等で前時（前時まで）の復習を行い、学習内容の理解を深める。(1時間) ②授業の自己評価として振り返りシートに学習のまとめをする。	

社会的養護Ⅱ	2年　後期 卒選　幼選　保必	演習1単位	担当教員名	澁谷榮昭（実務家教員）

授業のテーマ及び到達目標（学習成果）

① テーマ　：子どもの養護の場である児童養護施設等における保育士の役割

② 目標

・子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について理解を深める。（3）

・社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。（3・4・5）

・社会的養護における子どもの虐待防止及び家庭支援について理解を深める。（3・4・5）

授業の概要

「子どもの貧困」や児童虐待、DVなど、施設で暮らす子どもに限らず、すべての子どもに対する社会の養護が必要な時代である。施設で働く保育士には、高い専門性をもつ「福祉職」としての自覚とその機能が求められている。そこで、子どもの権利や家庭や社会の具体的なあり方について理解するとともに、多様な事例をとおして、保育と社会的養護の関係について理解を深め、社会的養護にかかわる子どもへの支援のあり方について学ぶ。

授業計画

コマ	項　　目	内　　容
1	今日の養護問題について	・児童養護の定義　・社会的養護の今日的課題
2	子どもの権利を守る仕組み	・子どもの権利　・社会的養護と子どもの権利
3	社会的養護の理念と機能	・社会的養護の理念　・社会的養護内容の機能と役割
4	家庭養護の理念と生活特性	・家庭・家族への支援　・家族再統合に向けた支援
5	社会的養護における記録と評価	・記録の意義と目的　・社会的養護における評価
6	社会的養護における支援の計画	・アセスメントと支援計画の作成　・子どもの権利を守る仕組み
7	社会的養護における専門的技術1	・保育士の倫理と責務　・保育士の専門性
8	社会的養護における専門的技術2	・相談援助の知識・技能とその実践
9	社会的養護における自立支援	・自立のとらえ方　・自立に向けた支援・援助
10	児童養護の体系と児童福祉施設の概要1	・乳児院　・児童養護施設　・母子生活支援施設
11	児童養護の体系と児童福祉施設の概要2	・障害児施設　・児童自立支援施設　・障害児通園施設　・里親制度
12	施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際	・日常生活支援　・専門的ケア　・子どもの心の援助
13	児童虐待	・児童虐待の要因　・虐待された子どもへの支援　・虐待への対応
14	施設養護における家庭支援	・子どもと家族への支援　・児童相談所との連携　・家庭支援
15	社会的養護の課題と展望	・社会的養護にかかわる専門職　・社会的養護のこれから
定期試験	15コマ終了後、筆記試験を行う。	
テキスト	「社会的養護内容」吉田眞理　編著　高橋一弘　村田紋子	
参考図書	{社会的養護内容総論」畠中義久：同文書院、「演習と保育と社会的養護内容」橋本好市：みらい	
教員の評価方法	授業態度（20%）、レポート（20%）、筆記試験（60%）を総合的に評価する。	
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①予定講義についてテキストなどを参考にして理解を深め疑問点があればまとめておく。（1時間） ①演習課題に関する知識を深めるために参考図書や新聞記事に目を通すようにする。（1時間） ②保育実習終了後は反省点や課題を確認するなど卒業後の進路に向けて専門性を高めるようにする。（1時間） ②講義終了後は配付された資料や回答例及びテキストを使って整理しておく。（1時間）	

子どもの養護	1年　後期 卒選　幼選　保選必	講義2単位	担当教員名	千 葉　剛

授業の到達目標及びテーマ

① テーマ ： 人生に関連させて社会的養護を学ぶ

② 目標 ・ 児童養護施設の運営・管理について理解する。(3・8)

・施設養護における基本的な援助技術について理解する。(3・4・8)

・社会的養護の実際と施設養護の実践について考える。(3・5・8)

・施設実習に向けて調べる。 (3)

授業の概要

子どもの養護では，社会的養護Ｉで学んだ社会的養護に関する基本的な知識をベースに，施設養護における基本的な援助技術を学び，施設保育士をはじめとする福祉専門職の資質や役割について学習する。また、各施設の事例研究を通して対象者の実情や保育者の支援の仕方などを学び合う。さらに，それぞれの児童福祉施設の概要や利用者，生活の様子，職員の仕事内容等を調べ，施設養護の実際について理解を深め，2年次の施設実習に役立てる。

授業計画

コマ	項　目	内　容
1	第5章 施設における子どもの社会的養護	施設養護の基本理念　施設養護の基本原理
2		施設養護の過程　施設養護の展望
3	第8章 施設養護における基本的な援助技術	施設養護における援助技術　個別援助技術
4		集団援助技術　カウンセリング　子どもの心理療法
5	第9章 社会的養護の実際	施設養護の生活特性　家庭養護の生活特性　衣食住の基礎的ニーズの充足
6		しつけ　学習指導　余暇生活 施設と学校・地域社会との連携　自立支援
7	第10章 社会的養護における支援計画と個別支援の実際	個別支援計画の作成　個別支援計画書
8		日常生活支援の実際 （児童養護施設・母子生活支援施設の事例分析）
9		自立支援施設の実際 （障害者支援施設・児童養護施設の事例分析）
10		自立支援施設の実際 （母子生活支援施設・障害者支援施設の事例分析）
11		自立支援施設の実際 （医療型障害児入所施設事例分析）
12	第13章 施設養護の実践紹介	児童養護施設　障害児を対象とする施設
13		障害者支援施設　障害福祉サービス事業所　児童自立支援施設
14	第14章 福祉施設実習に向けて	福祉施設実習の目的　記録及び自己評価
15		社会的養護についてのまとめ

定期試験	15コマの講義終了後に筆記試験を実施する。
テキスト	改訂子どもの養護　－社会的養護の基本と内容－　松本峰雄・和田上貴昭　編著　建帛社
参考図書	図解で学ぶ保育　社会的養護Ｉ　原田旬哉・杉山宗尚　編著　萌文書林
教員の評価方法	授業態度（１０％），レポート・提出物状況（２０％），小テスト・定期試験（７０％）の総合で評価
①準備学習等履修上の留意点②課題に対するフィードバックの方法等	①予定授業についてテキストを熟読し、学習内容を確認するとともに疑問点をまとめておく。(1時間) ①学習プリントやテキスト等で前時（前時まで）の復習を行い、学習内容の理解を深める。(1時間) ②授業の自己評価として振り返りシートに学習のまとめをする。

保育の心理学	1年　前期 卒選　幼必　保必	講義2単位	担当教員名	任　　亦　　雷

授業の到達目標及びテーマ

① テーマ：子どもの現在の発達状態が、今後どのように発達を遂げていくのか道筋を理解する。

② 目標：・保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する（3）
・子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める（3）
・乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。（3）

授業の概要

幼児教育および保育の専門家にとって、日々触れあう子ども達が現在どのような発達の状態にあるのか、また、今後どのような発達を遂げていくのか、その大まかな道筋を理解することは、発達を援助する効果的な保育を実践するにあたって必要不可欠な知識となる。保育の心理学はこのような知識を体系化した心理学の１分野であり、人間の一生涯にわたる心と行動を研究対象とするものである。授業では、「乳幼児期」の発達に関する心理学の知見について具体的事例を交えながら解説し、乳幼児の心理と行動の理解を深めるとともに保育との関連を考えることを目的とする。合わせて、保育者としての自己理解を目指して、青年期の発達に関する心理学の知見も紹介する。

授業計画

コマ（回）	項　　目	内　　容
1	乳幼児の発達　インストラクション	心理学，発達心理学の特徴を学び，発達的な考え方を学ぶ意義を理解する。
2	乳幼児の発達　心身の発達①	身体の発達，特に新生児の五感の発達の特徴を理解する。
3	乳幼児の発達　心身の発達②	身歩行開始後の発達的変化を中心に，身体の発達，および運動能力の特徴を学ぶ。
4	乳幼児の発達　人間関係の発達①	対人関係の中から発達する愛着感情を理解する。また，これらの発達を支える大人の役割を学ぶ。
5	乳幼児の発達　人間関係の発達②	愛着の発達,測定方法及び愛着関係が子どもに及ぼす影響を理解する。
6	乳幼児の発達　人間関係の発達③	遊びの発達，および仲間関係の特徴を理解する。また，これらの発達を支える大人の役割を学ぶ。
7	乳幼児の発達　自己の発達①	乳幼児期の自己や性役割，心の理論について理解する。
8	乳幼児の発達　自己の発達②	自己制御や自己評価の発達について理解する。
9	乳幼児の発達　情緒の発達	一次的・二次的感情や、他者の情緒理解、社会的参照について理解する。
10	乳幼児の発達　認知の発達①	三項関係や心の理論を中心に乳幼児期の認知能力の特徴を理解する。
11	乳幼児の発達　認知の発達②	自己中心性の発達を中心に乳幼児期の認知能力の特徴を理解する。
12	乳幼児の発達　記憶の発達	記憶や描画発達を中心に乳幼児期の認知能力の特徴を理解する。
13	乳幼児の発達　言葉の発達①	叫喚から多語文発話まで，有意味言語を話すまでを中心に乳幼児の言語発達を理解する。
14	乳幼児の発達　環境の影響	きょうだいがいることによって子どもに及ぼす影響，環境移行に伴う問題の特徴を理解する。
15	乳幼児の発達　生涯発達とまとめ	児童期以降の各発達段階における発達課題を理解することを通して，生涯発達の視点を学ぶ。

定期試験	15コマ終了後に筆記試験
テキスト	なし(随時、資料を配布する)
参考図書	なし
教員の評価方法	授業内容の理解や、授業で得た知識をどの程度まで保育に生かすことができるかという観点から、授業態度（小テストやミニレポートなど）、学期末試験などをもとに総合的に評価する。（授業態度20%、試験80%）
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①受講後、配布したプリントの内容を振り返り、復習しておくこと（1時間） ②フィードバックとして、レポートや小テストの実施後に解説を行うこと。

子どもの理解と援助	2年　後期 卒選　幼必　保必	演習1単位	担当教員名	任　　亦　　雷

授業の到達目標及びテーマ

① テーマ：子ども理解の意義を学び、保育実践に生かす力を身に付ける

② 目標：・保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する（3）

・子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する（3）

・子どもを理解するための具体的な方法を理解する（3・4・5）

・子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する（3・4・5）

授業の概要

子ども理解の意義と重要性を理解し、保育実践と結び付けて考察する力を身に付ける。また、子どもの発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法について、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身に付ける。

授業計画

コマ	項　　目	内　　容
1	子ども理解とは	ガイダンス、子ども理解と保育士の役割を学ぶ
2	子どもの問題行動と背景	保育実践事例から子どもの気になる行動の課題を捉え、分析する
3	子どもとの信頼関係	子どもと保育者の温かい関係・信頼関係の重要性と構築
4	子どもの遊び	遊びの中で子どもが何を学び、身に付けているかを読み取る
5	協同性の育ち	協同性の発達と育成、遊びの中から捉える
6	集団における育ち	集団特有な問題と課題、けんかやいざこざ時の対応を学ぶ
7	保育者の対応	保育者の対応から周囲の子どもは何を学んでいるかを考える
8	子どもの発達と学び①	発達障害とその課題について理解する
9	子どもの発達と学び②	発達障害の持つ特性が、日常生活においてどのような困り感を生じさせるかを討議を通じて捉える
10	発達の記録と観察①	認知発達検査の考え方を学ぶ
11	発達の記録と観察②	WISCの群指数の考え方、統計資料の読み取り方
12	発達検査の理解とフィードバック	発達検査の結果から、子どもの特性や課題を読み取る
13	カウンセリング	コミュニケーション理論からカウンセリングの基礎的な姿勢と技法について学ぶ
14	家庭との連携	保護者の心情の理解と家庭への支援の方法を学ぶ
15	保育者間、専門機関との連携	園内の協力体制と専門機関等との連携の在り方

定期試験	15コマ終了後に筆記試験
テキスト	なし（随時、資料を配布する）
参考図書	なし
教員の評価方法	授業内容の理解や、授業で得た知識をどの程度まで保育に生かすことができるかという観点から、授業態度（小テストやミニレポートなど）、学期末試験などをもとに総合的に評価する。（授業態度20%、試験80%）
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①受講後、配布したプリントの内容を振り返り、復習しておくこと（1時間） ②フィードバックとして、レポートや小テストの実施後に解説を行うこと。

子ども家庭支援の心理学	２年　　前期 卒選　　幼選　　保必	講義２単位	担当教員名	鈴木　永二

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：生涯を見通した、子どもの心身の発達、親子関係・家族関係をめぐる現代社会の子育て状況と課題を理解する。

② 目標　・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。

・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、その家庭を包括的に捉える視点を習得する。（3）

・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。（3）

・子どもの精神保健とその課題について理解する。（3）

授業の概要

この世に生を受けた子どもたちは、人間社会の一員として育っていく。子どものへの理解は、生涯を見通したうえでの今でなければならない。子どもをとりまく親子関係、家族関係、社会状況等を踏まえ、子ども支援の課題、視点を習得、理解を深める。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	オリエンテーション 乳幼児期の発達	・子ども家庭支援の心理学での学び ・乳幼児期の発達
2	児童期の発達	・思考の発達　　・仲間関係　　・いじめ　　幼保小連携
3	青年期の発達	・子ども家庭支援の心理学での学び ・乳幼児期の発達
4	成人期・高齢期の発達	・子ども家庭支援の心理学での学び ・乳幼児期の発達
5	家族・家庭の意義と機能	・家族、家庭、世帯　・子どもにとっての家庭の役割 ・家庭の機能の外部化
6	親子関係・家族関係の理解	・家族を理解するための理論 ・ジェノグラム
7	子育てを取り巻く社会的状況	・晩婚化　　・非婚化　　・出産、子育て ・高度生殖医療　　・喪失
8	ライフコースと仕事・子育て	・ライフコース　　・ライフコースの中の仕事、子育て ・親としての育ち
9	多様な家族の現状	・家族の多様性　　・ひとり親家庭　　・ステップファミリー ・ＬＧＢＴＱ　　・外国につながりのある家族
10	配慮を要する家庭①	・保護者に精神疾患がある場合　　・保護者に障害がある場合 ・配慮を要する家庭の子どもの心理と支援
11	配慮を要する家庭②	・虐待とは　　・子どもに与える影響 ・虐待家庭やその子どもに支援者として関わるときの留意点
12	子どものストレス	・子どもに反応が出るということ　　・癖　　・退行 ・心身症
13	睡眠、食事、排泄 にかかわる症状	・睡眠に関連する症状　　・食事に関連する症状 ・排泄に関連する症状
14	子どもに見られる その他の症状	・チック　　・吃音　　・選択制緘黙
15	発達障害、まとめ	・発達障害とは　・限局性学習法（ＳＬＤ）／学習障害（ＬＤ） ・注意欠陥多動症　・自閉症スペクトラム　他
定期試験	定期試験は実施しない。随時の課題レポートの提出で評価する。	
テキスト	スギ先生と考える「子ども家庭支援の心理学」　杉崎　雅子：萌文書林	
参考図書	「家庭支援の心理学」：建帛社　メディア教材等も適時活用	
教員の評価方法	授業態度（20%）、課題レポート（80%）の総合で評価する。	
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①保育の心理学を復習すること。 ②個別対応などでフィードバックをしていく。	

子どもの保健	１年　前期 卒必　幼必　保必	講義２単位	担当教員名	鳥海　悦子（実務家教員）

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：　子どもの心身の健康と発育及び保健の意義を理解する。

② 目標　・　子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。（３）

・　子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。　（３）

・　子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。（３、４）

・　子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。（３、４、５）

授業の概要

子どもの健やかな心身の成長発達を促すとともに、子ども自身がそれぞれ持っている能力を引き出す教育支援のあり方について理解する。また、疾病予防の方法や心身の健康状態を正しく把握し、保育者として適切に対応する力を身につける。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	子どもの心と体の健康と保健の意義	・生命の保持と情緒の安定のための保健活動の意義と目的 ・健康の概念と健康指標
2		・現代社会における子どもの健康の現状と課題 ・地域における保健活動と子どもの虐待防止
3	子どもの発育・発達と保健	・私たちの体 ・身体発育
4		運動機能の発達
5		生理機能の発達と保健
6		・感覚器の発達 ・精神機能の発達
7	子どもの病気の予防と適切な対応	かかりやすい感染症①
8		かかりやすい感染症②
9		感染症予防と対応①
10		感染症予防と対応②
11		その他の子どもの病気
12		先天異常
13	子どもの心身の健康状態とその把握	発育・発達の把握と健康診断
14		・子どもの健康状態の観察 ・体調のよくない子どもへの対応
15		保護者との情報共有　※保育における保健

定期試験	１５コマ終了後前期筆記試験
テキスト	保育者のための「子どもの保健」　鈴木美枝子 編著　　創成社
参考図書	保育所におけるアレルギー対応・保育所における感染症対策・保育施設における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン（政府刊行書）
教員の評価方法	定期試験（８０％）、提出物（１０％）、学習への関心・態度（１０％）等により総合的に評価
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業内容理解のため、事前学習として教科書や事前に指示した資料をよく読んで理解を深めておくこと。 （予習・復習はそれぞれ０．５時間程度） ②「振り返り問題」により前時の復習をおこない、解説を行うことでフィードバックする。

子どもの健康と安全	1年　後期 卒必　幼必　保必	演習１単位	担当教員名	鳥海　悦子（実務家教員）

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：　子どもの保育環境を最善な状態に整えておくことの重要性を理解する。

② 目標　・保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。（３、４）
・保育における衛生管理・事故防止・安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。（３、４、５）
・子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解する。（３、４、５）
・保育における感染症対策について具体的に理解する。（３、４、５）
・保健的対応の基本を踏まえ、子どもの発達や状態に即した適切な対応について具体的に理解する。（３、４、５）
・子どもの健康安全管理に関わる組織的取り組みや、保健活動計画の計画評価について理解する。（３）

授業の概要

良い環境で生活することは、子どもの健やかな成長のために大切であることを理解し、安全で楽しく過ごせる保育環境のあり方について学ぶ。また、施設での事故防止や安全管理に関する学びをとおして、保育者として子どもの生命を守る心構えを育てる。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助	・子どもの健康と保育の環境　・個別対応と集団全体の健康および安全の管理 ・演習に臨む姿勢　・子どもの養護の仕方
2	保育における健康及び安全の管理	衛生管理
3		事故防止と安全管理
4		危機管理
5		体調不良や傷害が発生した場合の対応
6	子どもの体調不良等への適切な対応	応急手当
7		一次救命処置
8	感染症対策	感染症の集団発生の予防
9		感染症発生時と罹患後の対応
10	保育における保健的対応	保健的対応の基本的な考え方
11		３歳未満児への対応
12		個別的な配慮を要する子どもへの対応
13		障害をもつ子どもへの対応
14	健康および安全の管理の実施体制	保健活動の計画および評価
15		職員間の連携・協働と関係機関との連携
定期試験	１５コマ終了後筆記試験	
テキスト	保育者のための「子どもの健康と安全」　鈴木美枝子 編著　創成社	
参考図書	保育所におけるアレルギー対応・保育所における感染症対策・教育保育施設における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン（政府刊行書）	
教員の評価方法	定期試験（８０％）、提出物（１０％）、学習への関心・態度（１０％）等により総合的に評価	
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業内容理解のため、事前学習として教科書や事前に指示した資料をよく読んで理解を深めておくこと。（予習・復習はそれぞれ０．５時間程度） ②「振り返り問題」により前時の復習をおこない、解説を行うことでフィードバックする。	

子どもの食と栄養Ⅰ	１年　前期 卒選　　幼選　　保必	演習2単位	担当教員名	瀬戸由美(実務家教員)

授業のテーマ及び到達目標

① ﾃｰﾏ　：　小児栄養の基本的理論を理解した上で、実際の保育に役立つような実践力を身につける。

② 目標　1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ（1・2・3）
2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める（3・4）
3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、その内容について理解する（2・3・4・5）
4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する（3・4・5）
5. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する（3・4・5）

※保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（2019年3月、厚生労働省）
保育所における食事の提供ガイドライン（平成24年3月、厚生労働省）
授乳・離乳の支援ガイド（2019年3月、厚生労働省）
第４次食育推進基本計画（2021年3月、厚生労働省）
日本人の食事摂取基準2020

授業の概要

乳幼児期は、人生の始まりの時期です。心身の発達にとっても最も重要な時期であり、健全な心身の発達に、適切な栄養は必要不可欠です。健康的な生活の基本としての食生活の意義や栄養の基本を学ぶ。また、食育の基本及び地域社会・文化との関わりを学ぶことにより、家庭や児童福祉施設の食生活の現状について学ぶ。生活の多様化による個々人の対応と特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても理解を深める。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	子どもの健康と食生活の意義	オリエンテーション・子どもの心身の健康と食生活
2		子どもの食生活と現状と課題（自分の食事と子どもの食事）
3	栄養に関する基礎知識	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
4		食事摂取基準と献立作成・調理の基本
5	子どもの発育・発達と食生活	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
6		幼児期の心身の発達と食生活
7		学童期の心身の発達と食生活
8		生涯の心身の発達と食生活
9	食育の基本と内容	保育における食育の意義・目的と基本的考え方
10		食育のための環境づくりと食育の内容と計画及び評価
11		地域の関係機関や職員間の連携
12		食生活指導及び食を通した保護者への支援：食育発表
13	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	家庭と児童福祉施設における食事と栄養
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	疾病及び体調不良の子どもへの対応
15		食物アレルギーのある子どもへの対応
定期試験	15コマ終了後に定期試験を実施する。	
テキスト	発育期の子どもの食生活と栄養　学建書院	
参考図書	適宜紹介する	
教員の評価方法	レポート・発表（２０％）、期末試験結果（８０％）を総合的に評価する。	
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①毎回事前学習として、３０分程度要するレポートを作成する。 ②レポートを通し、互いの学びあいをする時間があります。 ③保育現場で活用することを意識しながら課題解決に向けて、全体で講評を行い、個別対応も随時行う。	

子どもの食と栄養Ⅱ	1年　後期 卒選　　幼選　　保選必	演習2単位	担当教員名	瀬戸由美(実務家教員)

授業のテーマ及び到達目標

①ﾃｰﾏ　：　「子どもの食と栄養」を理解した上で、実際の保育に役立つような実践力を身につける

②目標　1.健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する保育士として役立つ実践的な内容を学ぶ（3・4）

2.子どもの発育・発達と食生活の関連について実践的な内容とし体験を通し理解を深める（3・4・5）

3.養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、その内容について理解する（3）

4.家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解し体験を通して理解する（3・4・5）

5.関連するｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ（※）や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する（3・4・5）

6.学びを実践に移す過程として、発表の場を設定する（5・6）

※保育所における食事の提供ガイドライン（平成24年3月、厚生労働省）
食育基本法（平成17年6月17日制定法律第63号　最終改正平成27年9月11日法律第66号）

授業の概要

子供の食と栄養を学んだ知識をもとに、実習をとおして実践力や応用力を養う。一歩進んだ実習や食育の体験から幼児の健康を維持し、食べることを楽しみ、生きる幸せを感じるための「食べる力」を育む支援ができる保育士の養成を目指す。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	食生活や栄養についての実践	子どもの心身の健康と食生活を統計から考える
2		献立作成・調理の基本について実習をする
3		疾病や体調不良対策として口から食べることの実習を行う
4		自分の食事と子どもの食事の違いを献立作成から考える
5	子どもの発育・発達と食生活実践	乳児期の授乳期・離乳期の食生活をふまえた献立作成
6		乳児期の授乳期・離乳期の離乳食を中心とした調理実習
7		幼児期の心身の発達と食生活をふまえた献立作成
8		幼児食を中心とした調理実習
9		子どもの食と健康についてのまとめ：発表会
10	食育の実践的取り組み	保育における食育の意義・目的と実際
11		食育のための媒体づくり
12		食生活指導及び食を通した保護者への支援：発表会
13	緊急時の対応	食物アレルギーのある子どもへの対応
14		緊急時・災害時への対応
15	さらなる学びへ向けて：まとめ	子どもの食と栄養総合的まとめと課題
定期試験	15コマ終了後に定期試験を実施する。	
テキスト	発育期の子どもの食生活と栄養　学建書院	
参考図書	適宜紹介する	
教員の評価方法	レポート・発表（２０％）、定期試験結果（８０％）を総合的に判断する。	
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①毎回事前学習として、自分の身体や食べ方と関連する３０分程度を要するレポートを作成する。 ②レポートを通し、互いの学びあいをする時間があります。 ③保育現場で活用することを意識しながら課題解決に向けて、全体で講評を行い、個別対応も随時行う。	

子ども家庭支援論	２年　　前期 卒選　幼選　保必	講義２単位	担当教員名	大　塚　初　美

授業のテーマ及び到達目標（学習成果）

① ﾃｰﾏ　：　家族の子育てに対する社会的支援について学ぶ

② 目標　・乳幼児を取り巻く環境としての家庭、地域社会の今日的状況や子育て上の問題について理解する。（3）

・子育て家庭を支える地域の社会資源や具体的な子育て支援の取り組みに関する知識を身に付ける。（3・4）

・保育者としての保護者支援、家庭支援の理念や姿勢、具体的方法について理解する。（3・4）

・少子化、情報化など社会状況の変化を踏まえ、求められる子育て支援のあり方について考える力を養う。（3・4・5）

授業の概要

家庭、家族の概念や機能、今日の子育て家庭の状況、特に乳幼児の子どもを育てる保護者の悩みや子育て上の困難について知り、社会的な子育て支援の必要性を理解する。その上で、子育て家庭のための社会資源や子育て支援の具体的取り組みを知る。そして特に保育現場で行われる保護者支援、家庭支援の理念や方法を学ぶ。

授業計画

コマ(回)	項　目	内　容
1	子ども家庭支援の意義と役割①	①イントロダクション(目的･方法･評価) ②子ども家庭支援の意義と必要性
2	子ども家庭支援の意義と役割②	①家族･家庭の動向 ･家族の変化 ･家族と仕事 ･少子化
3	子ども家庭支援の意義と役割③	①現代の子育ての困難 ②これからの子ども家庭支援
4	保育士による子ども家庭支援①	①子ども家庭支援の目的 ②子ども家庭支援の対象と内容
5	保育士による子ども家庭支援②	①保育士に求められる基本的態度 ・保育士自身を観る
6	保育士による子ども家庭支援③	②育児モデルとなる伝承の育児法 ・育児の知恵
7	多様な支援の展開と関連機関との連携①	①主な関連機関との連携 ②保育所利用家庭への支援
8	多様な支援の展開と関連機関との連携②	①地域の子育て家庭への支援 ・子育てひろばでの支援
9	多様な支援の展開と関連機関との連携③	①父親の子育てへの支援 ②要保護児童家庭への支援
10	子育て家庭に対する支援の体制①	①子育て家庭の福祉を図るための社会資源
11	子育て家庭に対する支援の体制②	①子育て家庭支援の制度 ・子ども子育て支援新制度
12	子育て家庭に対する支援の体制③	①子育て家庭支援の政策動向と課題
13	世界の子育て①	①国際比較 ・先進工業国と開発途上国
14	世界の子育て②	①国際比較 ・スウェーデン、カナダ、フィンランドの状況
15	さらなる学びへ向けて：まとめ	①演習の振り返りとその先の課題

定期試験	１５コマ終了後に筆記試験を実施する.
テキスト	「実践　こども家庭支援論」　松本園子　永田陽子　福川須美　森和子著　　ななみ書房
参考図書	「保育所保育指針解説書」厚生労働省編
教員の評価方法	定期試験の結果(70%)、学習への関心・態度(10%)、課題解決への取り組み状況(20%)等により、総合的に評価する。
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキストと講義資料を読んでくること(１時間), レポートや小論文の提出 ②レポートや小論文の返却で評価反省を行う。

幼児と健康	2年　　前期 幼必	講義１単位	担当教員名	長　沼　　信　子

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：幼児期の心身の発達と健康を養うための知識を身に付ける。

② 目標　・心身の健康に関する領域「健康」を理解する。（３）
・乳児期の健康について理解する。（３）
・幼児期の健康について理解する（３）

授業の概要

領域「健康」の指導に関する、幼児期の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項について知識を身に付ける。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	オリエンテーション	健康とは（領域の中の健康）
2	幼児期の心身の発達１	幼児期の健康課題
3	幼児期の心身の発達２	幼児期のこころの発達
4	幼児期の基本的的な生活習慣１	幼児期の体の諸機関の発達
5	幼児期の基本的的な生活習慣２	幼児期の生活習慣
6	幼児期の安全な生活１	幼児の安全教育・健康安全について
7	幼児期の安全な生活２	幼児期の怪我の特徴・病気の予防
8	幼児期の運動発達	幼児期における運動発達的特徴

定期試験	筆記試験を８コマ終了後に実施する。
テキスト	演習　保育内容　健康　井狩芳子
参考図書	幼稚園教育要領解説（文部科学省）
教員の評価方法	定期試験７０％　学習の関心・意欲１０％　レポート２０％
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法	①講義の準備を整え・課題をもって授業に出席する。 ②各時間ごと課題に対する振り返りを行い，次の講義に生かすことができるようにする。

幼児と人間関係	２年　前期 卒選　　幼必　　保必	講義１単位	担当教員名	北　澤　和　美

授業のテーマ及び到達目標（学習成果）

① ﾃｰﾏ　：乳幼児期の人間関係の発達について、関係論的視点から理解する。

②目標　・子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴と課題について説明できる。(3・6)

・乳児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。（3・6)

・幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について説明できる。(3・6)

・自立心、協同性、道徳性・規範意識の育ちについて発達の姿と合わせて説明できる。(3・6)

授業の概要

領域「人間関係」の指導の基盤となる、子どもの人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身につけ、子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解する。そして関係発達論的視点から、他者との関係や集団との関係の中での乳幼児期の人間関係の発達について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身につける。

授業計画

コマ（回）	項　　目	内　　容
1	保育内容の人間関係とは	イントロダクション　領域「人間関係」のねらいと内容
2		領域「人間関係」の特性と子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴
3		乳児期に育つ人と関わる力の発達　　情報機器・教材の活用法
4	３歳児の人間関係	自立と集団生活
5	４歳児の人間関係	仲間意識のはじまり　遊びと人間関係の育ち
6	５歳児の人間関係	協同性のはじまり　集団生活と人間関係
7	子どもの発達と人間関係	家庭の中で育つ人間関係、地域とのかかわりの中で育つ人間関係
8		幼児期に育みたい資質・能力と人間関係

定期試験	8コマ終了後定期試験を実施
テキスト	「対話的・深い学びの保育内容　人間関係」　塚本美知子　編著　萌文書林
参考図書	「幼稚園教育要領解説」文部科学省刊　「保育所保育指針解説書」厚生労働省編
教員の評価方法	定期試験(70%)、学習への関心・態度(10%)、課題解決への取り組み状況(討議・レポートの内容等)(20%)により総合的に評価する。
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの補法等	①テキストと講義資料を読んでくること(１時間)，レポートや小論文の提出 ②レポートや小論文の返却を行い評価反省を行う。

幼児と環境	1年　後期 卒選　幼選必　保選	講義１単位	担当教員名	尾崎　律子（実務家教員）

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ： 幼児を取り巻く環境や，幼児と環境の関わりについての専門的事項における感性を養い知識・技能を身に付ける。

② 目標　・子どもを取り巻く環境と子どもの発達にとっての意義を理解する。（３）
・幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。（３）
・標識・文字等，情報・施設との関わりの発達を理解する。（３）（４）
・身近な環境に自ら関わり，豊かな体験ができるよう，意図的，計画的に環境を構成することの重要性を理解し，実践する力を身に付ける。（３）（４）（５）

授業の概要

身近な環境との関わりに関する領域「環境」の示すねらいに基づいて，幼児の発達の過程を捉え，「環境を通して行う教育」を実現するために専門的事項の理解を深める。

授業計画

コマ(回)	項目		内容
1	領域「環境」とは	子どもを取り巻く環境	・子どもを取り巻く環境(物的・人的環境等）の理解と現代の課題
2			・子どもと環境との関わり方　・領域「環境」がめざすもの
3		ねらい及び内容	・幼稚園教育要領の基本　・ねらいと内容の考え方　・環境構成の考え方
4		こどもの発達と環境	・乳幼児期の発達の特徴について　・遊びや生活の広がり
5	身近な自然との関わり		・身近な自然に触れる体験の大切さ　・園の環境　・情報機器，教材の活用
6	身近な物との関わり		・身のまわりの物や遊具に親しむ活動　・性質や仕組みに関心をもつ
7	標識・文字等の関わり		・標識や文字等の必要感や実感を育むため保育者の役割
8	身近な情報や施設との関わり		・地域の施設や身近な情報等を生かす関わり方の工夫
定期試験	なし		
テキスト	体験する　調べる　考える　領域「環境」　萌文書林		
参考図書	幼稚園教育要領解説，保育所保育針解説書		
教員の評価方法	学習への意欲・態度（30%）、課題レポートの提出物（70%）を総合して評価する。		
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法	①授業内容の予習（1時間)、授業後の課題レポート提出(1時間) ②授業内で課題のレポートの返却、解説を行う。		

幼児と言葉	1年　後期 卒選　幼選必　保選	講義１単位	担当教員名	櫻　井　正　昭

① テーマ：言葉のもつ意義と役割及び幼児の言葉の発達過程について理解し、保育者としての必要な専門的な知識と技能の習得を目指す

② 目標　・乳幼児の言葉の発達過程を理解し、実態に応じた援助の方法を習得する。(3,4,5)
・言葉に障害をもつ幼児への適切な対応の仕方について理解する。(2,3,4)
・絵本読み聞かせ等の基礎的な演習を通して、保育者としての基礎的基本的な技能を習得する。(3,4,5)

授業の概要

言葉はコミュニケーションの手段のほかに、知的活動を促し、感情や情緒を深める機能を有する。幼児期の言葉の指導や支援の在り方が、その後の人生において豊かな言語生活を送るための重要な鍵となっている。本授業では、幼稚園教育要領に示される「領域　言葉」のねらいを踏まえ、保育者として必要な知識や技能を習得するために、学生が主体的に「考え」「学び」「実践すること」を主眼とした授業を展開する。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	ガイダンス	・授業のねらい、レディネステスト
2	領域「言葉」におけるねらいと保育内容についての概観	幼稚園教育要領に示される「領域　言葉」のねらいについて ・要領本文の解説
3	乳幼児の言葉の発達　①	言葉の発達に応じた理解と支援 ・0歳から2歳児の言葉の実態と対応
4	乳幼児の言葉の発達　②	言葉の発達に応じた理解と支援 ・3歳から５歳児の言葉の実態と対応 ・小学校との連携
5	言葉を豊かに育てる児童文化財	児童文化財についての理解と実践 ・年齢に応じた支援
6	言葉に障害をもつ子どもへの支援の在り方	言葉の障害の種類と対応について ・言葉の発達の遅れと適切なサポートの在り方 ・家庭との連携
7	保育者と言葉（グループ討論）	「保育者と言葉」というテーマで、これまでの学習事項を踏まえて、少人数で話し合い、発表する
8	学びの振りかえり	
定期試験	８コマ終了後に筆記試験を実施する	
テキスト	「コンパス保育内容　言葉　第2版」（平成30.３　建帛社） 「幼稚園教育要領解説」（平30.３　文部科学省）・「保育所保育指針解説」(平30.３　厚生労働省) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（平30.３　内閣府・文科省・厚労省）	
参考図書	教師の自作資料・スライド	
教員の評価方法	学習への意欲･関心･態度(20%)、課題の提出状況と内容(20%)、定期試験(60%)等により総合的に評価する。	
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①　授業開始時の「確認テスト」の実施 ・前回履修内容の確認 授業終了時の「振り返りシート」の記入 ・自己評価 ②　上記について回収し、添削及び評価を行い、個人にフィードバックする。	

幼児と表現	1年　　前期 卒選　　幼必　　保必	講義1単位	担当教員名	石　森　小　緒　里

授業のテーマ及び到達目標(学習成果)

①テーマ:　　幼児の表現発達に対する基礎知識と援助の方補について習得する。

②　目　標　　・幼児の表現の姿やその発達について理解する。(3・4・5)

・幼児の身近な環境の中で育まれる表現についてについて理解する。(3・4・5)

・表現を支える保育者の基本的なあり方について理解する。(2・6)

授業の概要

保育環境における幼児の「素朴な表現の姿」やその発達について学習し、保育者として幼児の表現に寄り添う支援の方法について考察する。また、幼児に相応しい表現教育とはどのようなものなのか、全ての単元を通して、事例討議やレポート課題に取り組む。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	幼児教育の目的と領域「表現」	○幼児期にふさわしい教育とは
2	幼児の生活と遊び	○生活の中にあるものと遊び
3	発達と表現	○子どもの育ちや発達を表現の視点から捉える
4	表現とコミュニケーション	○模倣と協同
5	表現を支える保育者の基本的あり方	○子どもの表現理解
6	表現を生み出す環境とは	○幼児期における様々な環境
7	表現の可能性と実践	○多様な「もの」との出会いと発展
8	表現の評価と課題	○現代的課題と先駆的取り組み
定期試験	実施しない	
テキスト	新訂　事例で学ぶ保育内容　領域　表現／無藤　隆・浜口　順子／萌文書林	
参考図書	「幼稚園教育要領解説」文部科学省、「保育所保育指針解説」厚生労働省	
教員の評価方法	学習への関心・態度(20%)、単元レポート課題(80%)による総合的評価。	
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①課題発表、レポート提出に向けて事前準備やまとめをしっかり行う。(時間外活動として各1時間) ②各課題レポートの返却後、個別又は、全体への解説を行う。	

保育内容総論	１年　　前期 卒選　　幼必　　保必	演習１単位	担当教員名	井　坂　　亨

授業の到達目標及びテーマ

① テーマ　：　保育所保育指針・幼稚園教育要領の「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて、保育内容全体について理解する。

② 目標
- 保育内容の歴史概観、保育所・幼稚園の保育内容の構成について理解する。（３）
- 保育所・幼稚園の計画と実践について理解する。（３・４）
- 養護（生命の保持,情緒の安定）と教育（五領域）が一体的に展開することを、具体的な保育実践につなげ理解する。（３・４）
- 子どもの育ちを支える保育者のあり方を考える。（６）

授業の概要

保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育目標,子どもの発達,保育内容を関連付けて学習する。保育内容の歴史概観、保育内容、保育所・幼稚園の計画と実践、養護と教育の一体的な展開、保育者のあり方等について学習する。
また、演習課題や事例問題、資料などを通して話し合い活動や体験活動を行い、保育者に必要な知識や資質などを身に付ける。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	「保育内容」とは何か	・「保育内容」の歴史概観　・「保育内容」の「基本」
2	保育所の保育内容	・保育所における保育　・保育所保育の原理　・保育の内容構成
3	保育所保育の理念と目標	・保育所の生活のあり方　・社会的視野の拡がりの中で ・保育所保育の内容
4	３歳未満児の保育内容	・３歳未満児の保育内容の構造　・０歳児の保育内容 ・１歳児の保育内容　・２歳児の保育内容
5	３歳以上児の保育内容	・保育所の保育内容の特質　・発達の特徴と保育士のかかわりの視点
6		・３歳以上児の保育内容の構成　・３歳以上児の保育に関わる配慮事項
7	保育所の計画と実践	・保育所の計画　・保育所の特色と計画　・保育の計画と指導計画
8		・保育課程の作成　・指導計画の作成　・家庭との連携
9	幼稚園における教育	・学校教育法と幼稚園　・幼稚園教育の基本　・幼稚園教育の目標
10	幼稚園教育の内容構成	・教育要領の「ねらい」・「内容」（領域）　・幼稚園教育の指導計画
11		・教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項
12	幼稚園の計画と実践	・教育課程　・指導計画　・計画と実践
13	保育内容の実践的（総合的）把握	・遊び的な活動　・生活の営みにかかわる活動 ・行事題材による活動 ・保育内容の総合性と相互性
14		
15	子どもの育ちを支える保育者のあり方	・子どもにとっての望ましい保育者　・研究する保育者
定期試験	定期試験なし	
テキスト	「保育内容総論」民秋　言・吉村真理子　編著（萌文書林）	
参考図書	「保育所保育指針解説書」　「幼稚園教育要領解説」	
教員の評価方法	授業態度（２０％）、課題レポート提出の評価（８０％）による総合評価	
①準備学習等履修上の留意点②課題に対するフィードバックの方法等	①テキストの学習予定箇所を熟読し，学習内容をある程度理解して受講する。（１時間） ①学習内容が多いため，予習課題等を忘れずに行う。（１時間） ②学習内容について、ペア学習やグループワークなどで本時のまとめを行う。	

保育内容演習・健康	２年　　前期・後期 卒選　　幼必　　保必	演習１単位	担当教員名	長　沼　信　子

授業の到達目標及びテーマ

① テーマ　：子どもたちの心と体の健康を培うために必要な知識と実践力を身に付ける。

② 目標　・子どもの健康をとらえる視点や健康課題について考える。（３，４）

・子どもの生理的発達や心身の発達について理解を深める。（３，４）

・基本的生活習慣の獲得や安全生活、遊びの保障について理解を深める。（３，４，５）

・領域「健康」のねらいや内容を理解し、保育者としてのその役割を自覚し保育実践していこうとする。（3，4，5，6）

授業の概要：　社会の変化に伴う近年の子どもたちを取り巻く厳しい状況を踏まえ、保育所や幼稚園において、子どもたちの心と体の健康を培っていくためには、どのような生活を大切にしていけばよいか。保育環境や具体的な援助としては何を大切にしていけばよいのか、保育実践者としての理解を深め実践できるようにする。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	子どもの健康な育ちの保障	・「健康」とは　・領域「健康」のねらい　・育みたい資質や能力
2	現代っ子の健康課題（問題）　①	・子どもの健康課題（問題）と解決策等　＜グループ討議＞
3	子どもの運動発達の保障と体力　①	・「運動遊び」の指導法 （用具を活用した運動遊びを考える…　指導案）
4	子どもの運動発達の保障と体力　②	・「運動遊び」の指導法…　模擬保育発表①　＜グループ＞
5	子どもの運動発達の保障と体力　③	・「運動遊び」の指導法…　模擬保育発表②　＜グループ＞
6	子どもの運動発達の保障と体力　④	・「運動遊び」の指導法…　模擬保育発表③　＜グループ＞
7	子どもの遊びと生活文化	・「運動遊び」のまとめ　・遊びが促す心身の発達と援助
8	大人も子どもも整えたい生理的発達	・五感の獲得　・「その人らしさ」とは
9	脳の発達と概念の獲得	・子どもと大人の概念形成　・「健やかな脳」が育つための発達要件
10	現代っ子の健康課題　②	・子どもの健康課題（グループ討議）から「オリジナル体操」を考える ・健康課題の対応策や解決策の一助として体操を考える　＜グループ＞
11	現代っ子の健康課題　③	・オリジナル体操の発表　＜グループ＞
12	現代っ子の健康課題　④	・オリジナル体操の発表　＜グループ＞　・まとめ
13	子どもの視点に立った安全の保障①	・子どもの身体的特徴と不慮の事故　・安全管理と安全教育
14	子どもの視点に立った安全の保障②	・「リスク」と「ハザード」　・「リスクマネジメント」 ・健康と安全を守るための協働
15	子どもの健康を支える協働	・あらためて「健康」を考える　・幼保小の接続 ・倉橋惣三の言葉から

定期試験	なし
テキスト	「演習保育内容　健康」　井狩　芳子　著　（萌文書林）
参考図書	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
教員の評価方法	学習に対する関心・態度（２０％）、発表・課題・レポート等（８０％）による総合評価
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法	①テキストや補助資料を中心に、次回講義のテーマや内容について予習する。（１時間）②各講義ごと、終了前に「振り返りシート」でフィードバックをさせ、担当からのメッセージを加え、また「振り返り」における学生の反応を次の課題に活かす。

保育内容演習・人間関係	２年　　後期 卒選　　幼必　　保必	演習１単位	担当教員名	北　澤　和　美

授業のテーマ及び到達目標（学習成果）

① ﾃｰﾏ　：子どもたちの人とかかわる力をどのように育てていくのかについて学ぶ。

②目標　・保育者をめざす者自身の人間関係について考える。(3・4)

・園生活の中で子どもたちの人とのかかわり方がどのように変化し、そのかかわりを通して、子どもたちの中に何が育つのか。それぞれの発達過程にある子どもたちに保育者としてどのように援助するかを学ぶ。(3・4・5)

・子どもたちの人間関係の育ちを取り囲む大人同士の人間関係のあり方を考える。（3・4・5・6）

授業の概要

保育内容総論での学び、保育領域「人間関係」の内容について、より具体的に子どもの人間関係の発達の理解を深めながら援助方法を学ぶ。また子どもの人間関係の発達、その人間関係の発達が児童期以降の発達にどのような影響を及ぼすのか、生涯発達からの視点からも見ていく。そして、子どもに自立心や人とかかわる力を育てるために必要な保育者からの援助とは何か、主体的に考える。そのためにディスカッションや事例検討などにも取り組む。

授業計画

コマ（回）	項　　目	内　　容
1	保育内容の人間関係とは	イントロダクション　保育の基本と領域「人間関係」
2		子どもを取り巻く社会の状況
3		領域「人間関係」の「ねらい及び内容」の取り扱い
4	子どもの発達と人間関係	０・１・２歳児における人との関わりの発達と保育者の援助
5		３・４・５歳児における人との関わりの発達と保育者の援助
6		愛着形成の理論と実際
7		子どもの自立心　　情報機器・教材の活用法
8		子どもの自己主張と自己発揮
9		いざこざ・けんかなどのトラブル
10		共感・思いやり
11		道徳性・規範意識　　情報機器・教材の活用法
12		コミュニケーション能力　　情報機器・教材の活用法
13		個と集団の育ち
14	子どもと人間関係	子どもを取り巻く人間関係
15	さらなる学びへ向けて：まとめ	演習の振り返りとその先の課題

定期試験	15コマ終了後定期試験を実施
テキスト	「対話的・深い学びの保育内容　人間関係」　塚本美知子　編著　萌文書林
参考図書	「幼稚園教育要領解説」文部科学省刊　「保育所保育指針解説書」厚生労働省編
教員の評価方法	定期試験(70%)、学習への関心･態度(10%)、課題解決への取り組み状況(討議･レポートの内容等)(20%)により総合的に評価する。
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの補法等	①テキストと講義資料を読んでくること(１時間)，レポートや小論文の提出 ②レポートや小論文の返却を行い評価反省を行う。

保育内容演習・環境	2年　前期 卒選　幼必　保必	形態 単位数	演習　１単位	担当教員名	尾崎 律子（実務家教員）

授業の到達目標及びテーマ

① ﾃｰﾏ　：子どもが様々な環境に関わり，豊かな体験ができるように，保育者としての実践力を身に付ける。

② 目標　・身近な環境とのふれあいについて，具体的な事例等から理解する。（３）（４）

・様々な環境の意義や役割について，子どもの発達を踏まえた指導を理解をする。（３）（４）（５）

・素材や教材研究を行い，子どもの実態に即した環境構成と遊びの展開について，模擬保育を行うことにより、実践的に学習する。（３）（４）（５）（６）

授業の概要：
幼稚園や保育所において，　子どもが生活を通して身近なあらゆる環境に主体的に関わりながら様々な活動を展開し，充実感や満足感を味わうという体験を重ねていくことの重要性を理解することが大切である。望ましい方向に向かって子どもの発達を促すように，保育内容に基づいた課題を設定し模擬保育を行い，実践力を養う。

授業計画

コマ	項目		内容	模擬保育
1	領域「環境」について	保育の基本	・ねらいと保育内容・模擬保育「課題」について	・模擬保育グループ編成
2		課題活動の研究①②③	・遊びと素材研究 （体験する・調べる・考える）実践①②③	・中心活動の検討
3				・指導案作成①
4				・指導案作成②
5	＜課題1＞ 身近な動植物に親しむ		感動体験や生命の尊さを育む	・模擬保育①
6			・情報機器や教材の活用方法	・模擬保育①の反・省評価
7	＜課題2＞ 自然などの身近な事象に関心をもち取り入れて遊ぶ		・好奇心や探求心を抱くには	・模擬保育②
8			・身近な事象に関心をもつようになるには	・模擬保育②の反省・評価
9	＜課題3＞ 身近な物を大切にする		・身のまわりの物に愛着を抱くことの意義	・模擬保育③
10			・試したり繰り返したリして遊ぶことの大切さ	・模擬保育③の反省・評価
11	＜課題4＞ 日常生活のなかで数量や図形などに関心をもつ		・文字や数量・図形とどうかかわっているか	・模擬保育④
12			・文字等の関心を抱くための保育者の役割	・模擬保育④の反省・評価
13	＜課題5＞ 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気づく		・季節の変化に触れるための環境の整備	・模擬保育⑤
14			・身近な文化や伝統に触れ親しむことの意義	・模擬保育⑤の反省・評価
15	保育内容「環境」まとめ		・保育内容「環境」を通して学んだことについてまとめる	

定期試験	実施しない
テキスト	体験する　調べる　考える　領域「環境」　萌文書林
参考図書	「幼稚園教育要領解説」等
教員の評価方法	学習への関心・意欲・態度（３０%）、指導案・提出物（７０%）の総合で評価
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキストと演習資料に目を通してくること（1時間）模擬保育の準備を行うこと（1時間） ②模擬保育後の指導案の返却と評価反省を行う。

保育内容演習・言葉	2年　前期 卒選　幼必　保必	演習1単位	担当教員名	櫻　井　正　昭

授業のテーマ及び到達目標

① ﾃｰﾏ　・子どもの「言葉」の世界を広げるために保育者として求められる知識と実践力を身につける。

② 目標　・子どもの言語発達過程を概観し，言葉を身につけるということの意味を理解する。(3,4)

・子どもの発達（身体・人間関係・環境とのかかわり）と言葉との関連を理解する。(3,4)

・言葉の発達をうながす援助について（保育の計画・保育者の役割・小学校との連携等）理解する。(3,4,5)

・読み聞かせや紙芝居，言葉遊び等の演習を通して子どもの言葉の世界を広げる技能を身につける。(3,4,5,6)

授業の概要

学生は、既に１学年において「幼児と言葉」の講義を通して、幼稚園教育要領に示している「領域　言葉」に関する事項のねらいや指導の在り方について学んできた。本授業では、その内容を踏まえ、幼稚園教諭に限らず保育士や施設支援員を含めた保育者が子どもの言葉をどうとらえ、その発達をどのように支援していくか、演習を中心としながらの学びを進めていく。

授業計画

コ　マ(回)	項　　目	内　　容
1	ガイダンス	学習のねらい、学習方法、評価について
2	指導法「言葉」と保育	幼稚園教育要領等における言葉の指導のねらい
3	子どもの発達を基盤とした指導法	０歳児の発達と言葉
4		１～２歳児の発達と言葉
5		３～５歳児の発達と言葉
6	保育教材としての児童文化財（グループ演習）	言葉あそび
7		劇あそび
8		絵本（童話）の読み聞かせ
9		朗読
10		お話（素話）
11	配慮を必要とする子どもへの支援	・インクルーシブ教育・保育の概論
12		・障害の種別と要因、対応
13	指導案の作成（グループ演習）	・言葉の発達を意識した指導案の作成
14	小学校との接続	・小学校との適切な接続連携、「ことばの教室」についての概要
15	学習のまとめ・振り返り	・家庭との連携の在り方

定期試験	実施しない
テキスト	コンパス保育内容　言葉（建帛社） 「幼稚園教育要領解説」（平30.3　文部科学省）・「保育所保育指針解説」（平30.3　厚生労働省） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（平30.3　内閣府・文科省・厚労省）
参考図書	「シードブック　保育内容　言葉」（平30.3　建帛社）
教員の評価方法	学習への意欲・関心・態度（30%）、演習（読み聞かせ　おはなし　紙しばい等）での発表（40%）、課題の提出状況と内容（30%）等を総合的に評価する。
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①予習課題の提示　①　グループ及び個別演習のための準備、リハーサル等（各１～２時間程度） ②発表時に各自の留意すべき事項等について指導・助言し、個々の発表力向上を図る。

保育内容演習・表現	1年　後期 卒選　幼必　保必	演習1単位	担当教員名	石　森　小　緒　里

授業のテーマ及び到達目標(学習成果)

①テーマ:　幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示される領域「表現」について理解する。

② 目　標　・領域「表現」が意味するねらいと内容について理解する。(3・4・5)

・乳幼児の生活の中で育まれる「表現」について理解する。(3・4・5)

授業の概要

保育者を志す学生にとって、表現の学びは、自身が「表現者として成長するための学び」と「幼児の表現を育むための学び」に繋がるものでなければならない。人は、表現しながら生き、人が生きていることが表現そのものである。子どもも大人も常にモノや誰か（人）との関係の中に生きながら、その関係が表現の形をつくっていく。表現を育てることはその関係を育てることでもある。授業の中では、保育現場における「ごっこ遊び」や「劇あそび」等の演習を通して、表現の可能性と課題について学習する。

コマ(回)	項　目	内　容
1	表現とは	・子どもの育ちと表現　・幼少期の思い出
2	幼稚園・保育所における表現	・幼児教育の歴史　・表現の種類
3	表現遊び	・「ごっこ遊び」や「なりきり遊び」の大切さ
4		・絵本から広がる表現の可能性(情報機器・教材の活用法)
5		・グループ演習（絵本の世界を体感するしかけ作り）
6		
7		・グループ発表
8	課題（物語、音楽等）からの表現	・テーマと表現方法についての考察（情報機器・教材の活用法）
9		・グループ編成→創作活動 ※各グループごとに分担し、最終目標としてはクラス全体で子どもと一緒に取り組める活動（プログラム）に仕上げる。
10		
11		
12		
13		
14		・幼児（まこと幼稚園）と交流活動
15	表現を育む保育者の姿勢	・子どもの発達と援助の仕方　・これまでの活動を振り返って
定期試験	実施しない	
テキスト	新訂　事例で学ぶ保育内容　領域　表現／無藤　隆・浜口　順子／萌文書林	
参考図書	ナツメ社　絵本から広がるあそび大集合　／石井光恵・甲斐聖子　著	
教員の評価方法	授業態度(20%)、レポート(30%)、制作した作品実技発表（50%）を総合的に評価する。	
①準備学習等履修上の留意点②課題に対するフィードバックの方法等	①課題発表、レポート提出に向けて事前準備や反省をしっかり行う。（時間外活動として各1時間） ②グループ演習課題は個人での振り返りを行った後に、それを基に全体での講評を行う。また随時、個別対応を行う。	

乳児保育Ⅰ	１年　　前期 卒選　　幼選　　保必	講義２単位	担当教員名	北　澤　和　美

授業のテーマ及び到達目標（学習成果）

① テーマ：乳児保育の基本、乳児保育の保育内容、乳児保育の現状や課題を理解する。

② 目標　・乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。(3)

・保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。(3・4)

・３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。（3・4）

・乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。（3・4）

授業の概要

乳児保育の意義や歴史、そして乳児保育の現状や課題を理解させるとともに保育内容、運営体制、加えて職員間の連携、地域の関係、機関との連携等を踏まえ、乳児期の保育の重要性を理解する。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	乳児保育の意義・目的と役割	オリエンテーション　　乳児保育の意義・目的と歴史的変遷
2		乳児保育の役割と機能　乳児保育における養護及び教育
3	乳児が生活する場の現状と課題	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
4		保育所における乳児保育　保育所の現状と課題
5		幼保連携型認定こども園における保育　認定こども園の現状と課題
6		幼稚園での保育　幼稚園の現状と課題
7		家庭的保育等における乳児保育　地域型保育の現状と課題
8		在宅訪問保育　在宅訪問保育の現状と課題
9		保乳児院における乳児保育　乳児院の現状と課題
10	乳児の生活	乳児保育の重要性　信頼関係の形成　学びの芽生え
11		乳児保育の内容の概要　０歳児の保育内容　１・２歳児の保育内容
12		保育指針、教育・保育要領にみる乳児保育の内容の具体
13	協働のなかの保育の実際	職員間の連携・協働　保護者との連携協働
14		保護者との連携　保護者支援
15		自治体や地域の関係機関等との連携・協働　前期学習のまとめ
定期試験	１５コマ終了後、定期試験を実施する。	
テキスト	「乳児保育の基本」萌文書林	
参考図書	「乳児の生活と保育」ななみ書房　「はじめて学ぶ乳児保育」同文書院　ﾒﾃﾞｨｱ教材等も適時活用	
教員の評価方法	定期試験（70%）、授業態度（10%）、発表・レポート・提出物状況（20%）の総合で評価する。	
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①学習の準備を整え授業に出席し、演習後は、まとめ（１時間）のレポートを提出する。 ②課題レポート、最終試験は評価後、返却及び解説をします。	

乳児保育Ⅱ	１年　　後期 卒選　　幼選　　保必	演習１単位	担当教員名	北　澤　和　美

授業のテーマ及び到達目標（学習成果）

① テーマ：乳児期の心身の発達を促すために必要とされる知識や援助法を理解する。

② 目標　・３歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。（3・4）

・養護及び教育の一体性を踏まえ、３歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。（3・4・5）

・乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。（3・4・5）

・上記を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。（3・4）

授業の概要

新生児として、この世に誕生した「赤ちゃん」を人間社会で育てるには、乳児期のしっかりとした発育発達を理解し、保育することが大切である。この内容として、乳児の発達過程や身体機能の発達、さらに基本的生活習慣の獲得のための保育士の配慮と援助について、具体的に理解を深めていく。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	乳児保育の基本	オリエンテーション　　乳児の主体性を尊重した生活と遊びの展開
2		一人ひとりの子どもの発達を理解する枠組
3		発達過程に沿った対応の基本　０歳児・１、２歳児・３歳児
4		子どもを理解した援助、受容的・応答的な関わり
5		家庭との連携　保育所の６年間を見通した支援　１日２４時間の支援
6	生活や遊びを通しての保育とその環境	３歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際
7		３歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際
8		生活や遊びの環境　信頼　保育時間　保育室の空間
9		健康で安全な環境　子どもの健康支援　事故防止　食育
10	乳児の発育発達を踏まえた生活と遊び	０歳児の保育の実際　子どもの遊びや生活を支える環境構成
11		１・２歳児の保育の実際　子どもの遊びや生活を支える環境構成
12		保育環境の実際　生活と援助の実際　遊びの援助の実際
13	保育の全体的な計画と指導の実際	保育の全体的な計画の構造　PDCAサイクルの連続の重要性
14		３歳未満児の指導計画　指導計画作成の実際
15	まとめ	学びの振り返り　まとめ
定期試験	１５コマ終了後、定期試験を実施する。	
テキスト	「乳児保育の基本」萌文書林	
参考図書	「はじめて学ぶ乳児保育」同文書院　「乳児保育演習ガイド」建帛社　ﾒﾃﾞｨｱ教材等も適時活用	
教員の評価方法	定期試験（70%）、授業態度（10%）、発表・レポート・提出物状況（20%）の総合で評価する。	
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①演習のための発表等事前準備を1時間は行い、授業に出席する。 ②課題レポート、およびグループ演習の際はその都度、解説・講評をする。	

特別支援保育	２年　後期 卒選　幼選　保必	講義２単位	担当教員名	佐　藤　憲　治

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：　障害に関する知識や教育指導、支援方法を修得する。特別支援教育をテーマとする。

② 目標　・　障害に関する知識を習得する。（3）（4）

・　教育指導方法を習得する。（3）

・　支援方法を習得する。（3）

・　地域連携や特別支援教育の計画ができるようにする。（3）（4）（5）

授業の概要

特別支援教育及び障害児保育領野に関する知識・支援方法について学び、教育方法のアプローチやチーム学校の形成の方法、保護者への支援、関係機関との地域連携等について学ぶ。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	特別支援教育と幼児教育について	・障害のある子どもの保育・教育を支える理念　・特別支援教育の歴史
2	特別支援教育の役割について	・特別支援教育の役割について　・特別支援教育コーディネーターの役割
3	発達障害について(1)	・発達障害者支援法　・DSMとICD　・自閉症、アスペルガー障害
4	発達障害について(2)	・ADHD(注意欠如・多動性障害)、学習障害、広汎性発達障害について
5	知的障害について(軽度知的障害を中心に)	・知的障害について　・軽度知的障害について　・事例演習
6	視覚障害・聴覚障害・言語障害について	・視覚障害について　・聴覚障害について　・言語障害について　・各検査、人工内耳、ビジョン・トレーニングについて
7	肢体不自由・病弱について	・肢体不自由・病弱について　・医療的ケア児について
8	その他の障害について	・重症心身障害等について　・医療的ケアと療育活動
9	障害児への教育と指導	・教育指導方法、障害児体育、統合保育、特別支援教育コーディネーターについて
10	障害児への自立活動と近年の生物心理社会的療法	・障害者総合支援法等の法律について　・心理社会的支援について
11	障害はないが「気になる子ども」とその対応について	・「気になる子ども」について　・事例演習(ケースフォーミレーション)
12	その他特別な配慮を要する子どもについて	・児童虐待を受けた子どもの理解と援助　・貧困家庭の子どもの理解と援助
13	教職員との連携及び地域連携(1)	・特別支援連携協議会について　・教育支援計画と指導計画について
14	教職員との連携及び地域連携(2)	・教育支援計画と指導計画の作成(ケース事例演習)　・関係機関との連携
15	現状と課題	・特別支援教育の現状と課題

定期試験	実施する。（保育士国家試験相当）
テキスト	「障害のある子どもの保育・教育」　編著　小竹利夫　建帛社
参考図書	上中修編著『Professionalを目指す保育者論』教育情報出版.2019.
教員の評価方法	受講態度・意欲・演習参加（20%）、定期試験（80%）の総合評価
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①社会福祉・子どもの保健を復習すること。 ②個別対応などフィードバックをする。

保育指導法の研究	１年　　後期 卒選　　幼必　　保必	講義２単位	担当教員名	大　塚　初　美

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：子どもの豊かな活動・経験を援助するための保育の方法について学ぶ。

② 目標　・子どもの豊かな活動・経験を援助するために保育者は子どもにどうかかわっていくかを理解する。（3，4）

・保育の多様性をとおして、保育の工夫についての理解を深める。（３，４，５）

・乳幼児期の子どもにとって大事な遊びや生活についてみる目を養う。（３，４，５）

授業の概要

活動的、行動的存在である子どもが、自由に活動できる保育所（園）や幼稚園において、保育者の役割は子どもの興味・関心を誘発する環境を構成し、様々な刺激を与えながら自己活動を引き出すことである。そのことにより、子どもが生み出した自己活動をねらい（保育内容）の方向に向けて、発展させる方向について検討していく必要がある。そのことを踏まえ、豊かな保育実践を展開するための保育の方法・指導法について学習する。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	講義内容について	・オリエンテーション　・講義内容の概要説明、「保育の方法の基本」
2	環境による保育	・子どもにとって環境の持つ意味　・５領域　・「お店屋さんごっこ」
3	遊びによる指導　①	・「遊びの大切さと保育者の配慮について考える」（グループ討議）
4	遊びによる指導　②	・「遊び」とは　・遊びを通しての総合的指導
5	教師の役割	・幼稚園教育要領での「教師の役割」
6	保育の方法・指導法　①	・「指導案を考える」①　（これまでの講義内容のフィードバック）
7	保育における個と集団	・事例から個と集団を考える
8	ふさわしい園生活と保育	・幼児にふさわしい生活の展開　・柔軟で多様な保育形態
9	情報発信の大切さ	・事例「連絡帳」から　・「おたよりを作ろう」
10	行事を生かした保育	・行事の意義　・園の中の行事計画
11	家庭・地域・小学校との連携(接続)	・家庭や地域との連携　・小学校教育との接続
12	保育の方法・指導法　②	・「指導案を考える」②　（これまでの講義内容のフィードバック）
13	配慮を要する子どもへの保育　①	・外国人の子どもの受け入れと保育
14	配慮を要する子どもへの保育　②	・障害のある子どもの受入れと保育（グループ討議）
15	保育者の成長と保育実践の深まり	・保育者の資質と実践（「先輩たちから見た保育者の資質」）・自己評価（科目全体の反省等）
定期試験	１５コマ終了後実施する。	
テキスト	新しい保育講座「保育方法・指導法」ミネルヴァ書房	
参考図書	幼稚園教育要領、保育所保育指針	
教員の評価方法	学習への関心態度（10%）、課題・レポート・提出物状況（20%）定期試験（７0%）の総合で評価	
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法	①テキストや補助資料等で予習や復習をする。（１時間）　②各講義ごと、終了前にテキストや補助資料をもとに「振り返りシート」でフィードバックをさせる。シートに担当からのメッセージを記載するとともに、シートにおける学生の反応を次時の講義に活かす。	

児童文化	1年　前期 卒選　幼選　保必	演習２単位	担当教員名	髙橋　留美子（実務家教員）

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：　保育実践を意識した講義・発表体験を通して児童文化を理解する。

② 目標　・　児童文化に関する基礎知識を理解する。（3）（4）

・　児童文化が子どもの発達にかかわることを理解する。（3）（4）（5）

・　制作・発表等を主とする演習を通して基礎的な技術を習得する。（3）（4）（5）

授業の概要

児童文化の歴史的背景などの基礎的知識を理解し、児童文化は保育の現場で子どもの成長や発達に、重要な影響を与えていることを学習する。玩具の制作、絵本の読み聞かせや紙芝居の実演などを取り入れることにより児童文化財を身近に感じ、豊かな保育が展開できるように学んでいく。

授業計画

コマ(回)	項　目		内　容
1	児童文化とはなんだろう		・オリエンテーション　・児童文化の歴史
2			・児童文化の現状と課題　・児童文化が保育実践に与える効果
3	児童文化財を保育にいかそう	絵本	・絵本の特色　・絵本を生かした保育とは
4			・絵本によって子どもはどう成長するのか　・絵本の構成
5			・絵本の読み聞かせの方法と実践　・オリジナル絵本の作成と発表
6		伝承遊び	・伝承遊びとは　・伝承遊びは将来子どもに何をもたらすのか
7			・伝承遊びの魅力と実践　（折り紙，こま，お手玉，あやとり，わらべうた等）
8			
9		運動遊び･ゲーム(集団遊び)	・集団遊びで育まれることはなにか　・遊びの実践
10		シアタースタイル	・各種シアターの基礎知識 ・グループ制作と発表会（パネルシアター・ペープサートなど）
11			
12			
13		年中行事について	・年中行事と子どもの育ちについて・現場における具体的な行事
14	保育の実際を考える		・コンピュータについての基礎知識・保育の中での活用方法について
15			・授業のまとめと今後の課題　・アンケート

定期試験	なし
テキスト	児童文化がひらく豊かな保育実践（保育出版社）
参考図書	必要に応じて適宜資料を配布
教員の評価方法	授業態度（10%）、発表（40%）、制作（30%）、レポート（20%）の総合で評価
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①絵本・紙芝居など発表のための事前準備を行う(各々1時間）、テキストの次回講義内容を通読する。 ②授業内で、課題レポートの返却、解説を行う。

保育・教育課程論	１年　後期 卒選　幼必　保必	講義２単位	担当教員名	小　松　督　記

授業のテーマ及び到達目標（学習成果）

①テーマ　教育課程・全体的な計画・指導計画の意義、編成・作成の方法、カリキュラムマネジメントの意義の理解

②目標：

１．幼稚園・保育所において教育課程・全体的な計画が有する役割・機能・意義を理解する。（３）

２．教育課程・全体的な計画編成の基本原理及び保育実践に即した教育課程・全体的な計画編成、指導計画作成の方法を理解する。（３・４・５・６）

３．各領域・年齢をまたいでカリキュラムを把握し、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。（３・６）

授業の概要：

幼稚園教育要領・保育所保育指針を基準として各幼稚園・保育所において編成される教育課程・全体的な計画・指導計画について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各幼稚園・保育所の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義について理解を深める。

授業計画

コマ（回）	項　目	内　容
1	Ⅰ　教育課程・全体的な計画(保育課程)とは	1　教育課程・全体的な計画(保育課程)はなぜ必要か。 ・役割・機能・意義 2　乳幼児期における教育課程・全体的な計画(保育課程)とはどのようなものか。 3　教育課程の歴史的な変化　4　乳幼児期の教育・保育では
2	Ⅱ　さまざまな教育課程・全体的な計画(保育課程)	1　幼稚園教育課程・保育所全体的な計画(保育課程)の変遷 2　さまざまな教育課程・全体的な計画(保育課程)
3	Ⅲ　幼稚園の教育課程とは	1　法律に示されている幼稚園教育の目的 2　法律に示されている幼稚園教育の目標 3　新幼稚園教育要領にみる新たな幼稚園教育の考え方 4　教育課程の編成の例 5　教育・保育実践の振り返りと教育課程の見直し ～カリキュラムマネジメント～ 6　全教職員の共通理解及び保護者への公約
4	Ⅳ　保育所の全体的な計画(保育課程)とは	1　全体的な計画(保育課程)の作成 2　全体的な計画(保育課程)の法律的要件 3　全体的な計画(保育課程)と指導計画 4　全体的な計画(保育課程)の実例　5　保育実践の評価と記録 6　保育所としての自己評価と地域・保護者への情報開示
5	Ⅴ　幼稚園・保育所の生活と乳幼児理解	1　乳幼児期の生活 2　保育の場での発達と一人一人の乳幼児の理解 3　環境を通しての教育　4　遊びを通しての教育 5　主体的・対話的で深い学びのために 6　幼児期の学びと小学校の学び
6	Ⅵ　教育課程・全体的な計画(保育課程)、指導計画を考える上で共通に必要なこと	1　幼稚園教育要領における５つの領域 2　小学校との連携　～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿～ 3　延長保育・預かり保育 4　保護者・地域との連携、子育て支援
7	Ⅶ　全体的な計画(保育課程)、指導計画を考える上で必要なこと	1　乳児保育に関わるねらい及び内容 2　１歳以上３歳未満児の保育に関わるねらい及び内容 3　全体的な計画(保育課程)と指導計画の具体化をめざすために
8	Ⅷ　教育課程の編成から長期の指導計画へ	1　教育目標を設定する　2　教育課程を編成する 3　教育課程・全体的な計画(保育課程)と指導計画の関係 4　指導計画の指導とは　5　長期の指導計画
9	Ⅸ　短期の指導計画の作成	1　短期の指導計画 2　指導計画の作成の手順と実践・評価
10		3　振り返り　4　記録のとり方と評価についての新しい動向
11	Ⅹ　全体的な計画(保育課程)を編成し、指導計画を作成する	1　全体的な計画(保育課程)を作成する
12		2　全体的な計画(保育課程)の具体化＝指導計画の作成
13	XI　指導計画の実践	1　指導計画を実践する　・模擬保育
14		2　保育を振り返る　・模擬保育
15	XII 教育課程・指導計画のＰＤＣＡサイクル	1　教育課程・全体的な計画(保育課程)の見直し 2　指導計画のＰＤＣＡサイクル

定期試験	後期試験で実施する。
テキスト	「就学前教育の計画を学ぶ」　松村和子・近藤幹生・椛島香代　著（ななみ書房）
参考図書	保育所保育指針解説（厚生労働省）　幼稚園教育要領解説（文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
教員の評価方法	定期試験(60%）、授業への取り組み状況（20%）、課題の提出状況（20%）を総合的に評価する。
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①　毎受講後、授業内容を振り返り、与えられた課題や自己課題についての学習を深める。（週１時間程度） 次回の授業内容について、テキスト・参考図書を中心に予習をし、授業の準備をする。（週１時間程度） ②　課題に対しては、各個人へのコメントや全体への解説を行う。

保育の方法及び技術	２年　　後期 卒選　幼必　保選	演習１単位	担当教員名	髙橋　留美子（実務家教員）

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ： 教育の方法論を理解し、教育の技術や情報機器及び教材の活用方法を身に付ける。

② 目標 ・ これからの社会を担う子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。(3)(4)

・ 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。（３）（４）（５）

・ 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。（３）（４）（５）（６）

授業の概要

これからの社会を担う子ども達に求められる資質･能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識･技術を実践事例をあげながら身に付けていく。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	保育の方法・技術とは①	・オリエンテーション　・これからの時代の幼児教育の方法
2	保育の方法・技術とは②	・保育の方法とは　・園生活を構成するさまざまな活動と指導と援助
3	遊び活動の指導方法と援助①	・園での遊び活動とは　・遊びの活動の意義について
4	遊び活動の指導方法と援助②	・遊びは幼児の育ちを促す　・まざまな遊び活動の指導・援助の視点とポイント
5	生活活動の指導方法と援助	・園での生活活動とは　・生活活動の指導・援助の視点とポイント
6	行事活動の指導方法と援助	・さまざまな行事活動について　・行事活動の教育的意義について
7	情報機器の活用法①②	・情報機器の活用例や活用法　・保育に活用できる教材作成　・発表
8		
9	課題活動の指導方法と援助①②	・幼稚園，保育所の課題活動とは　・課題活動の意義について
10		・さまざまな課題活動の指導の・視点のポイント　・指導案作成
11	プロジェクト活動の指導方法と援助①②	・プロジェクト活動の特徴 ・「協同的な学び」としてのプロジェクト活動とは
12		・プロジェクト活動における保育者の役割　・プロジェクトの展開と方法
13	評価の方法	・保育計画と評価　・評価の主体・対象　・評価の方法
14	保護者支援・地域連携の援助の方法	・保護者支援や地域連携の今日的課題　・家庭との連携・保護者支援の方法
15	小学校低学年の生活科	・「生活科」の内容と目標　・学習のまとめ
定期試験	なし	
テキスト	「実践を創造する　幼児教育の方法」　みらい	
参考図書	幼稚園教育要領解説・保育所保育所指針解説書 「遊び・生活・学びを培う教育保育の方法と技術　実践力の向上をめざして」　北大路書房	
教員の評価方法	学習への意欲・態度（20%）、発表（30%）、課題レポート・指導案等の提出物（50%）を総合して評価する。	
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法	①授業内容の予習（1時間)、授業後の課題レポート提出(1時間)　模擬保育の準備（1時間) ②授業内で課題のレポートの返却、解説を行う。	

教育相談	2年　後期 卒選　幼必　保必	講義2単位	担当教員名	澁谷榮昭（実務家教員）

授業のテーマ及び到達目標（学習成果）

① ﾃｰﾏ　：幼児保育、幼児教育の基礎的なカウンセリング（教育相談）の技法について学ぶ。

② 目標

・保育に活かすカウンセリング(教育相談)の理論や具体的な進め方についての理解を深める。(3･4)

・演習をとおして他者の気持ちを想像する力を高めるなど保育者としてのカウンセリング技術の向上を図る。(3･4･5)

授業の概要

保育所、幼稚園、児童養護施設等の保育の場では、一人ひとりの子どもが自分の持ち味を生かし、豊かな自己実現を図れるように子育て・養育することが緊急の課題となっている。そこで、実践事例や文学作品などを通して、子どもと自分への理解を深めるとともに、グループでのロールプレイングや記録分析などの演習を行い、子どもとかかわる心や身体の動き、他者の気持ちなどを想像する力を実践的に培っていく。

授業計画

コマ	項　　目	内　　容
1	教育相談・カウンセリングとは何か	・保育活動と教育相談 ・保育園・幼稚園におけるカウンセリング
2	カウンセリングの基本的な考え方	・カウンセリングの原理　　・カウンセリングの基本的な進め方
3	カウンセリングマインド	・カウンセリングマインドとは ・カウンセリングマインドを活かす
4	子どもの発達への援助Ⅰ	・乳幼児の発達と保育者の援助　　・情緒的発達
5	子どもの発達への援助Ⅱ	・幼児期の発達と保育者の援助　　・児童期・青年期の見通し
6	子ども理解の意味と方法	・アセスメントのあり方　・子ども理解をもとにした指導・援助
7	保育所・幼稚園における 教育相談の意義	・保育園・幼稚園における教育相談とは ・幼児期にふさわしい保育
8	登園拒否の理解と指導	・登園拒否の理解　　・登園拒否の指導 ・保護者への働きかけ
9	社会性の発達とつまずきへの理解	・社会性の発達　　・社会性のつまずき ・社会性を育てるかかわりの工夫
10	遊びの意義と教育相談	・子どもと遊び　　・保育所・幼稚園での遊び ・プレイセラピー
11	子育て支援のあり方	・子育てにおける親支援　　・子育て支援の構築 ・親へのカウンセリング
12	保護者への支援	・保護者との連携　　・保護者との関わり方
13	発達障害の理解	・保育所・幼稚園における特別支援　　・関係機関との連携
14	地域社会・関係機関との連携	・家庭・地域と子育ての共有　　・地域の人的資源の活用
15	保育者のメンタルヘルス	・保育者の心のゆとり　　・保育者としての成長 ・ストレスとリラクゼーション
定期試験	１５コマ終了後、筆記試験を行う。	
テキスト	「子ども理解とカウンセリングマインド」編著　青木久子　萌文書林	
参考図書	「子育て・保育　カウンセリングワークブック清水勇、阿部裕子：学事出版	
教員の評価方法	授業態度（２０％）、レポート（２０％）、筆記試験（６０％）を総合的に評価する。	
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①予定の講義内容についてテキストで確認しておく。（１時間） ①事前に配付されているプリントの課題について確認しておく。（１時間） ②講義で学習した内容は、テキストで補充しておく。（１時間） ②演習事例については要点を確認するとともに回答例について参考にするなど学習内容を深めるようにする。（１時間）	

造形表現Ⅰ	1年　前期・後期 卒必　　幼必　　保必	演習2単位	担当教員名	石 森 小 緒 里

授業のテーマ及び到達目標(学習成果)

①テーマ：保育環境で役立つ造形活動

② 目標　・造形的な活動を通して、表現することの楽しさを味わう。（3・4・5）

・課題作品の制作は、その際の適切な材料や用具について、自ら工夫し積極的に研究を行う。(3･4･5･6)

・幼児と共に安全で楽しく取り組める造形あそびの研究を行う。（3・4・5・6）

授業の概要

幼児は「遊び」を通して自身を確かめ、想像力を養いながら少しずつ「人」や「物」と触れ合い生きる力を身に着けていく。そうしたことから、保育者が担う環境（遊びの場）作りは大変重要である。授業では、できるだけ多くの材料体験をめざした課題制作に取り組み、実際の保育現場においても、子どもたちと共に安全で楽しく取り組める教材作りに応用させる。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	幼児と造形表現	造形表現の意義
2		領域「表現」の中の造形表現
3	平面造形の技法と応用	様々な表現技法の体験と応用（教材化）
4		（フロッタージュ、スクラッチ、マーブリング、スパッタリング、
5		デカルコマニー, コラージュ等の技法演習と適切な紙素材選び）
6		◆クレヨンとパスを使った技法演習
7		◆水を使う演習
8		
9		◆壁面製作（グループ製作）
10		
11	手作りおもちゃであそぶ	身近な素材（生活用品等）を活かしておもちゃをつくる
12		◆工作材料や道具について
13		◆切る、貼る、くっつける
14		◆発達と援助
15		
16	造形技法の総合的応用課題	スケッチブックシアター制作
17		◆様々な素材や技法を使って「しかけ」をつくる
18		◆保育実習で活用できる教材作り
19		
20		
21		
22		
23		◆作品発表（模擬保育）
24	装飾的な環境づくり	保育環境に活かせる装飾的な作品と行事への応用
25		◆季節感を楽しむ
26		◆思い出を飾る
27		◆空間を飾る（壁面デザイン）
28		
29		
30		

定期試験	なし
テキスト	「幼児造形の基礎」　樋口一成　編著/萌文書林
参考図書	適宜紹介する。
教員の評価方法	準備忘れ物状況を含めた授業態度（20%）、課題に対しての創意工夫（自己評価）を加味した課題作品からの評価（80%）の総合で評価
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバック	①保育現場で活用することを意識して課題制作に取り組むこと。使用する材用や用具は大切に扱い、授業で用意されたもの以外にも各自工夫・研究を行う。（各課題の為の事前準備や自主制作の時間外活動として１時間）　②課題ごとに全体で講評し、個別対応は随時行う。

造形表現Ⅱ	2年　　前期 卒選　　幼選　　保選	演習2単位	担当教員名	石 森 小 緒 里

授業のテーマ及び到達目標(学習成果)

① テーマ：幼稚園・保育所実習で活用できる教材作り

② 目標 ・幼児にとってダイナミックで自由な造形活動が展開できる教材作りをイメージし、創意工夫を行う。(3･4･5)

・実習で実際に活用できる教材をつくり、より積極的な実習体験ができるよう工夫する。（3・4・5・6）

授業の概要

保育者を志す立場としての明確な視点から「造形表現Ⅰ」で行った内容をさらに深め、幼児とより豊かな造形活動が展開できるよう、基礎的な造形能力を養う。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	子どもの表現理解と援助	○子どもの発達に配慮した援助をおこなうために
2		○活動の留意点と評価について
3	実習（幼稚園・保育所）に向けて	○遊びを豊かにするプログラム （実習先の実態を考慮し、環境や季節に合った造形遊びについて工夫する） ※模擬保育に関連させて
4		
5		
6		
7	造形的な総合活動（制作と表現）	○選択課題（エプロンシアター、パネルシアター、手袋シアター他
8		
9		※個人の実習計画の下、複数の制作可
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		○作品の発表と鑑賞
21	造形基礎演習	○版　画　演　習（紙版画、スチレン版画、ステンシル等）
22		
23		
24		
25		
26		○触感素材（紙粘土、小麦粉粘土、新聞紙+和紙等）を使った立体造形演習
27		
28		
29		
30		

定期試験	なし
テキスト	「0・1・2歳児の造形あそび」奥　美佐子／著　ひかりのくに株式会社
参考図書	適宜紹介する。
教員の評価方法	準備忘れ物状況を含めた授業態度（20%）、課題に対しての制作意欲・創意工夫（自己評価）を加味した作品からの評価（80%）の総合で評価
①準備学習等履修上の留意点②課題に対するフィードバック	①各自の実習予定と照らし合わせ制作を進め、提出期日は厳守すること。(選択課題の制作時間は、時間外として全30時間)②課題ごとに全体で講評を行い、個別対応は随時行う。

音楽表現Ⅰ	1年　前期・後期 卒必　幼必　保必	演習2単位	担当教員名	古溝　徹・北村　裕子・星　律子

授業の到達目標及びテーマ(学習成果)

① テーマ　:音楽表現に必要な基礎の知識と実践

② 目標　・ピアノ演奏の基礎を習得する。(3・4)　・打楽器の扱い方と演奏法の習得　・歌唱法の習得

・簡単な曲をピアノで演奏する。(3・4・5)　・打楽器によるアンサンブル　・歌のレパートリーを増やす

・簡単な童謡の弾き歌いを出来るようにする。(3・4・5・6)

授業の概要

ここでは、音楽表現に必要な基礎を、実際にピアノや打楽器を使いながら、習得する。ピアノの演奏能力には個人差があるので それぞれの学生に合った教材を選び、マンツーマンでのレッスンの形態をとる。 最終的には、音楽Ⅱでの「童謡の弾き歌い」を出来る事が目標となるが、ここではその前段階としての、ピアノ関する知識（指番号や鍵盤の位置等）や技術を学ぶ。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	ピアノ実技の活動計画	学生からピアノの経験を聞き取り、それを基にグループ分けをする。
2	音楽表現の基礎Ⅰ	・実際に保育所や幼稚園で使われるであろう曲の弾き歌いの練習。 ・「おべんとう」「おかえりのうた」「朝の歌」等それぞれのレベルに合わせた教材を使い、またそれぞれのレベルに合った伴奏法も学ぶ。
3	音楽表現の基礎Ⅱ	
4	音楽表現の基礎Ⅲ	
5	音楽表現の基礎Ⅳ	
6	音楽表現の基礎Ⅴ	
7	音楽表現の基礎Ⅵ	
8	音楽表現の基礎Ⅶ	
9	音楽表現の基礎Ⅷ	これまでの成果を全員の前で発表する
10	音楽表現の基礎Ⅸ	リトミックとはどのような物なのか、実践しながら学ぶ
11	ピアノ実技	・それぞれのレベルに合った童謡などを使って、弾き歌いの個人レッスン ・季節の歌や、２年前期で行われる教育実習で使用する歌を想定して初級は3～5曲、中級は5～7曲、上級は１０曲位をめやすに個人レッスンを進めていく。
12	ピアノ実技	
13	ピアノ実技	
14	ピアノ実技	
15	まとめ	実技試験に向けたまとめ
16	指遊び手遊び	楽譜を読み、曲とあて振りを覚える。
17	ピアノ実技及び歌唱	・３つのグループに分かれて、楽典（座学）、打楽器（実技）、歌唱（実技）の基礎を学ぶ。 ・　並行してピアノの実技も、初級、中級、上級の３つのグループに分けて個人レッスンを行う。 ・初級　バイエル ・中級　ブルグミュラー「25の練習曲」 ・上級　ギロック「子供のための練習曲」
18	ピアノ実技及び歌唱	
19	ピアノ実技及び歌唱	
20	ピアノ実技及び歌唱	
21	ピアノ実技及び歌唱	
22	ピアノ実技及び歌唱	
23	ピアノ実技及び歌唱	
24	発表会Ⅱ	
25	リトミック理論と実践	
26	ピアノ実技及び歌唱	
27	ピアノ実技及び歌唱	
28	ピアノ実技及び歌唱	
29	ピアノ実技及び歌唱	
30	まとめ	実技試験に向けたまとめ
定期試験	童謡等の弾き歌いによる実技試験	
テキスト	こどものうた100	
参考図書	特になし	
教員の評価方法	学習態度(20%)、実技試験(80%)の総合で判断	
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①次のレッスンまで、1時間以上(1日10分以上×6)復習及び予習をすること。 ②毎回のピアノレッスン後に学生それぞれが、その日の感想、反省点、次回までの目標を書き提出する。担当教員はそれに目を通し、アドバイス等を行う。	

音楽表現Ⅱ	２年　　前期・後期 卒選　幼選　保選必	演習2単位	担当教員名	古溝　徹・北村　裕子・星　律子

授業のテーマ及び到達目標（学習成果）

① テーマ　:ピアノ弾き歌いに関する知識と技術

② 目標　・ピアノによる弾き歌いが出来る（3・4・5・6）

・初めての曲でも楽譜があれば弾き歌い出来る（3・4・5・6）

授業の概要

ここでは音楽表現Ⅰで身に付けた知識と技術をもとに、実際に保育所や幼稚園等でよく歌われるであろう曲の中から、何曲 かを抜粋して、ピアノによる弾き歌いが出来るようにする。教科音楽と音楽表現Ⅰと合わせ、出来るだけ多くの曲を習得するように努力し、最終的には初めての曲でも楽譜があれば 弾き歌いが出来るようにする。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	ピアノ実技	発声法の基礎を学び、弾き歌いを実践する。 それぞれのレベルに合った童謡等の弾き歌い。 さらに、教育実習に向けて、それぞれの実習先で使用する曲の練習。 （のの様の歌、瞑想の曲、お眠りの曲、賛美歌等）
2	ピアノ実技	
3	ピアノ実技	
4	ピアノ実技	
5	ピアノ実技	
6	ピアノ実技	
7	ピアノ実技	
8	発表会	これまでの成果を全員の前で発表
9	ピアノ実技	課題曲数曲を使った個人レッスン。 弾ける曲のレパートリーをできるだけ増やす。 ここでは、一年を通した季節の歌を中心にそれぞれのレベルに合ったものを選択し練習する。
10	ピアノ実技	
11	ピアノ実技	
12	ピアノ実技	
13	ピアノ実技	
14	ピアノ実技	
15	まとめ	前期試験にむけたこれまでのまとめ
16	ピアノ実技	課題曲数曲を使った、個人レッスン 音楽表現Ⅱ-1に引き続き、季節の歌や行事の歌等を使い、レパートリーを増やす。 さらに楽譜や歌詞から読み取れる感情や情景を表現する。
17	ピアノ実技	
18	ピアノ実技	
19	ピアノ実技	
20	ピアノ実技	
21	ピアノ実技	
22	ピアノ実技	
23	発表会	これまでの成果を全員の前で発表
24	ピアノ実技	就職に向け実際に現場で使用されるであろう、アニメの主題歌や、歌謡曲などにも踏み込んで、就職試験も視野にいれ、ピアノの技術の向上と、音楽的な感性を磨く。
25	ピアノ実技	
26	ピアノ実技	
27	ピアノ実技	
28	ピアノ実技	
29	ピアノ実技	
30	まとめ	後期試験にむけた、まとめ
定期試験	15コマ終了後、及び30コマ終了後に定期試験を実施する。	
テキスト	「こどものうた100」他	
参考図書	特になし	
教員の評価方法	学習態度(20%)、実技試験(80%)の総合で判断	
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①その日にレッスンを受けたものを、次回までに出来るようにしておく。（1時間） ②毎回のピアノレッスン後に学生それぞれが、その日の感想、反省点、次回までの目標を書き提出する。担当教員はそれに目を通し、アドバイス等を行う。	

身体表現	２年　　前期　　後期 卒必　　幼必　　保必	演習２単位	担当教員名	高　橋　留　美　子

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：身体表現の基礎技術，援助方法を身に付ける。

② 目標　・幼児の豊かな感性や創造性を伸ばし，自己を育てるための援助方法を主に身体活動による実技を通して考える（３，４，５）
・表現する楽しさを味わい，自己表現力を高める。（３，４，５，６）

授業の概要

身体のいろいろな部分を自由に動かす能力，表現方法，創作能力を身に付け，全身で表現する楽しさを体験しながら，自己表現を高めると共に，リズムダンスや表現に関する遊びの体験と指導法を考える。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容	
1	オリエンテーション	身体表現について（ねらいと内容）	
2	身体表現を楽しむ	子どもの動き　　リトミック・身体表現	
3		動きを楽しむ　（既成のダンス）	
4	リズム遊びをする	リズム遊び	
5		リズム遊び（道具を使って）	
6		リズム遊び（ゲーム）	
7	身体表現の基礎運動	歩行・基本ステップ	
8		発達と身体の動き　基本ステップ	
9		発達と身体の動き　基本ステップ	
10	表現力を探る	動きのスケッチ（鏡，影）	
11		動きのスケッチ（動物，植物）	
12		動きのスケッチ（自然）	
13		動きのスケッチ（生活場面）	
14	動きの発展や表現の引き出し方	言葉かけと動きの関係	
15		言葉かけと動きの関係	
16		言葉かけと動きの関係	
17		言葉かけと動きの関係	
18	表現方法	卒業発表会に向けて（テーマ，チーム編成）	
19		音楽に合わせて，即興での創作（グループ）	
20		音楽に合わせて，即興での創作（グループ）	
21	ダンス創作活動１	テーマの決定　　動きのイメージ（グループ活動）	
22		創作活動	
23		創作ダンスの発表	
24	ダンス創作活動２	テーマの決定　　動きのイメージ（グループ活動）	
25		創作活動	
26		創作ボディパーカッションの発表	
27	ダンス創作活動３	テーマの決定　　動きのイメージ（グループ活動）	
28		創作活動	
29		創作表現劇の発表	
30	まとめ	創作ダンスの発表（卒業発表会に向けて）	

定期試験	定期試験は実施しない。
テキスト	なし
参考図書	「さくら・さくらんぼのリズムとうた」斎藤公子著　　群羊社
教員の評価方法	学習態度（３０％），活動状況（４０％）作品発表状況（３０％）の総合で評価
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法	①実技準備を整え・課題をもって授業に出席する。実技演習後は成果について発表し合ったり実践し合ったりする。（１時間） ②各時間ごと課題に対する振り返りを行い，次の活動に生かすことができるようにする。

保育・教職実践演習	2年　　後期 卒選　幼必　保必	演習2単位	担当教員名	石 森　小緒里

授業の到達目標及びテーマ(学習成果)

① テーマ ：教科・教職の各科目の履修状況を踏まえ、教員としての必要な知識技能を実践的に習得する。

② 目標　ア　幼稚園教諭・保育士の意義や役割、職務内容、使命感、責任感、教育的愛情に関する事項

① 保育への使命感や情熱をもち、子どもの成長を第一に考えて適切に行動できる。(3・6)

② 高い倫理観と規範意識、強い意志をもって職責を果たすことができる。(3・6)

イ　社会性や対人間関係能力に関する事項

① 保育専門職としての職責や義務の自覚に基づき、他の教職員と協力して職務を果たすことができる。(3・6・8)

② 保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる。(3・6・8)

ウ　子ども理解や学級経営に関する事項

① 公平かつ受容的な態度で子どもに接し、発達や状況に応じた適切な指導ができる。(3・4・5)

② 子どもとの間に信頼関係を築き、規律ある学級経営ができる。(3・4・5)

エ　保育内容の指導力に関する事項

① 保育内容に関する知識や技能、保育を行う上での基本的な表現力を身に付けている。(3・4・5・6)

② 子どもの反応や状況に応じ、保育計画や指導方法などを工夫することができる。(3・4・5・6)

授業の概要

これまでの学びの振り返りを行い、教科・教職科目の知識技能などを確認する。その中で、保育者や教職として必要な資質の課題について、グループ討議を行う。各自の課題テーマに従って課題解決を行うとともに関係する教育機関と連携し実践的に調査、分析・考察を行う。

授業計画

コマ	項　　目	内　　容
1	オリエンテーション、履修カルテの作成	○講義の概要とテーマについて　○履修カルテ作成の意義について
2～3	公開研究会参加	○大崎公立幼稚園研究協議会の公開研究会への参加
4	公開研究会レポート	○レポートの作成
5	子どもの思いの理解と保育者の願い	○事例研究
6	幼稚園の学級経営①	○外部講師による特別講話
7	幼稚園の学級経営②	○上記講義をもとに討議や発表を通して理解を深める。
8	小学校との連携①:生活科	○幼小連携での保育活動や小学校教諭の指導等を理解する。
9	小学校との連携②:生活科	○小学校1年生生活科の授業に参加し、保育活動のつながり等を探る。
10	特別な配慮を必要とする子どもへの支援	○事例研究
11	特別支援の実態	○外部講師による特別講義
12	保育の現状について	○外部講師による特別講義
13	先輩保育士から後輩に向けて	○先輩保育士による特別講話
14	履修カルテの整理とまとめ	○自らの2年間の学びを振り返り、履修カルテのまとめを行う。。
15	レポートの発表	○レポートのまとめと己課題や目標について、各自発表する。
定期試験	特にしない。	
テキスト	特にない。	
参考図書	適宜、紹介する。	
教員の評価方法	授業態度(20%)、演習活動の観察評価(30%)、提出課題レポート評価(50%)を総合的に評価する。	
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバック	①学外での演習活動及び外部講師による講話については、目的・テーマ等について事前に把握して臨む。また、学習活動後に感想等をまとめたり、自己評価をしたりする。(1時間) ②感想や自己評価を返却し、評価反省を行う。	

教育実習指導	1年　　前期・後期 卒選　　幼選　　保選	演習２単位	担当教員名	櫻井　正昭・千葉　剛・大塚　初美

授業のテーマ及び到達目標（学習成果）

① テーマ：教育実習の理論と実践を総合的に展開し、幼児教育の実践者としての資質の向上を図る。

② 目標　・教育実習を行うための事前準備（実習の意義、実習協力園の選定等）をする。（3・4）

・教育実習を行うための基礎的知識（教育実習とは、幼稚園の概要、保育指導計画案の立て方、教育実習の心得等）並びに実践力（模模擬保育等）を身につける。（3・4・5）

・観察実習を通して、子ども理解を深めるとともに、幼児の発達段階を理解し、保育者として関わりのの基礎を理解する。（3・4・5・6）

・本実習に向けての自分の課題を探る。（3・4・5・6）

授業の計画

	項　　目	内　　容
1	オリエンテーション	・演習「教育実習」の予定　・幼稚園教諭免許の取得について
2	教育実習に向けて①	・教育実習の内容と方法　・実習先の選定方法について
3	教育実習に向けて②	・幼稚園の概要　・幼稚園の一日
4		・実習までの準備計画
5	教育実習に向けて③	・実習生としての心得
6	教育実習に向けて④	・2年生と合同情報交換会
7		
8	指導計画	・「幼稚園」と「認定こども園」　・一日の流れと指導計画
9		・教育課程とは　・指導計画とは
10		・指導計画案の作成（全日）①
11		・指導計画案の作成（全日）②
12		・指導計画案の作成（全日）③
13	模擬保育	・模擬保育（部分）①
14		・模擬保育（部分）②
15		・模擬保育（部分）③
16		・模擬保育（部分）④
17	模擬保育のまとめ	・模擬保育のまとめ　　・実習への課題
18	教育実習指導のまとめ	・観察実習に向けて　・観察実習の意義・目的
19	観察実習のオリテーション	・観察実習の持ち方　・観察実習の準備
20		
21	観察実習	・観察実習の記録のまとめ　反省
22		・幼稚園の活動の観察
23		・保育者等の動きや子どもの心身の状況の観察　　・実習日誌の整理
24	観察実習	・観察実習の記録のまとめ　反省
25		・幼稚園の活動の観察
26		・保育者等の動きや子どもの心身の状況の観察　　・実習日誌の整理
27	観察実習	・観察実習の記録のまとめ　反省
28		・幼稚園の活動の観察
29		・保育者等の動きや子どもの心身の状況の観察　　・実習日誌の整理
30	観察実習のまとめ	・観察実習のまとめ　・本実習に向けての課題

定期試験	定期試験は実施しない。
テキスト	「幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド」わかば社
参考図書	「幼稚園教育要領解説」文部科学省　「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」わかば社
教員の評価方法	学習への関心・意欲・態度（20%）、指導案・小論文・提出物（60%）、模擬保育（20%）の総合で評価
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキストと演習資料に目を通してくること（1時間）、指導案やレポートの提出 ②提出された課題に対しては、適宜説明・講評する。

教育実習 事前事後指導	２年　　前期 卒選　　幼必　　保選	演習１単位	担当教員名	櫻井　正昭・千葉　剛・大塚　初美

① テーマ：教育実習の理論と実践を総合的に展開し、幼児教育の実践者としての資質の向上を図る。

② 目標　・教育実習を行うための事前準備（実習調書等の準備、実習協力園との打合せ等）をする。（3・4）

・教育実習を行うための基礎的知識（保育指導計画案の立て方、実習生の心得、模擬保育等）の確認する。

・本実習に向けての自分の課題を探る。（3・4・5・6）

・実習で気づいた課題を振り返り、その解決を探る。（3・4・5・6）

授業（観察実習）の計画

◎実習協力園　まこと幼稚園

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	オリエンテーション	・実習打ち合わせ日の確認　・実習予定の確認
2	教育実習に向けて①	・実習関係書類の作成①
3		・実習関係書類の作成②
4	実習日誌と指導計画案の作成	・実習日誌の作成
5		・指導計画案の作成　・模擬保育の準備
6	模擬保育	・模擬保育（部分）①
7		・模擬保育（部分）②
8		・模擬保育（部分）③
9		・模擬保育（部分）④
10	教育実習に向けて②	・模擬保育の反省と課題　　・教育実習の心構え
11	教育実習を振り返って	・実習を振り返って（幼稚園教育実習反省・評価）
12		・自己評価表作成　　・研究保育指導計画案の整理
13		・1年生と合同情報交換会「教育実習の学びと反省」
14		
15	教育実習のまとめ	・教育実習のまとめ（小論文）

定期試験	定期試験は実施しない。
テキスト	「幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド」わかば社　「教育実習の手引き」宮城県実習連絡
参考図書	「幼稚園教育要領」　文部科学省　　「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」わかば社
教員の評価方法	学習への関心・意欲・態度（20%）、指導案・小論文・提出物（60%）、模擬保育（20%）の総合で評価
①準備学習等 履修上の留意点 ②課題に対する フィードバック の方法等	①テキストと演習資料に目を通してくること（１時間）、指導案やレポートの提出 ②提出された課題は適宜フィードバックを実施する。

教育実習	２年　　前期 卒選　幼必　保選	形態 単位数	実習４単位	担当教員名	櫻井 正昭・千葉　剛・大塚 初美

授業（実習）のテーマ及び到達目標（学習成果）

① テーマ：教育の現場の実際に接し、幼児の観察やかかわりを通して、幼児への理解を深め、幼稚園等の役割や機能、幼児教育者の役割や職務内容を具体的に理解する。

② 目標
1　幼稚園等の役割や機能を具体的に理解する。(3)
2　観察や幼児とのかかわりを通して幼児への理解を深める。(3・4)
3　既習の教科の内容を踏まえ、幼児教育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。（3・4・5・6)
4　指導計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。（3・4・5・6)
5　幼児教育者の職務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。（3・4)

教育実習の計画

◎教育実習　　５月22日(月)～６月16日(金)　２０日間

1　幼稚園の役割と機能	・幼稚園の生活と一日の流れ　・幼稚園指導要領の理解と保育の展開
2　幼児理解	・幼児の観察、記録による理解　・幼児の発達過程の理解　・特性に応じた幼児への指導
3　教育内容・教育環境	・指導計画、発達過程に応じた指導内容　・幼児の生活・遊びと教育環境　・幼児の健康と安全
4　教育の計画、観察、記録	・教育課程・指導計画の理解と活用　・記録に基づく省察・自己評価
5　専門職としての幼児教育者の役割と職業倫理	・幼児教育者の職務内容　・職員間の役割分担や連携　・幼児教育者の役割と職業倫理

テキスト	「教育実習の手引き」宮城県幼稚園教育実習連絡協議会　「幼稚園指導要領解説書」文部科学省
参考図書	「幼稚園・保育所・認定こども園パーフェクトガイド」わかば社 「幼保連携認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省
教員の評価方法	各実習先の実習評価、各実習日誌等を基にして評価
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法	①教育実習の準備、振り返りを演習の前後に１時間取り組む。 ②実習活動に関する取り組みにおいては、実習巡回指導（訪問指導）などを通じて、適宜フィードバックを行う。

保育実習指導Ⅰ	１年　　後期 卒選　幼選　保必	演習2単位	担当教員名	長沼 信子・佐藤 憲治・高橋 裕彦

授業のテーマ及び到達目標

① ﾃｰﾏ　：保育実習の意義・目的を理解し、既習の教科内容との関連性を踏まえ、保育について総合的に学び、保育実践力を培う。

② 目標　・保育実習の意義、目的、内容、実習記録、指導案の書き方を理解し、各自目標を持って実習ができるように課題を明確にする。（３，４）

・子どもの発達過程を理解し、そのことを生かした、実習記録・指導案作成・子どもとのかかわりができる保育実践力を身につける。（３，４，５）

・保育士の専門性と職業倫理についての理解を深める。（２，３，４）

授業の概要

習得した教科内容の知識・技能を踏まえて保育の理論と実践について具体的に学習し、実習に向けて、保育士としての実践力を身につけるようにする。

授業計画

コマ	項　　目	内　　容
第１回	保育実習指導の概要のオリエンテーション	・保育実習の意義・目的の理解　・ＤＶＤ視聴 ・保育実習のスケジール（プロセス・日程等）
第２回	保育所実習の概要 （実習情報交換会）	・保育所の概要を通しての子どもの保育と保護者支援についての理解 （・実習情報交換会　１・２年生合同）
第３回		
第４回	乳幼児理解について	・子どもの発達過程の理解（幼児保育に関わるねらい及び内容）
第５回	乳幼児理解について	・子どもの発達過程の理解 （幼児保育に関わるねらい及び内容、１歳以上３歳児未満のねらい及び内容）
第６回	保育における子どもとのかかわり	・子どもとのかかわりで予想される子どもの活動・行動への対処のあり方
第７回	保育所について	・保育実習の段階とその内容の理解
第８回	保育所実習について（実習日誌）	・日誌の書き方、記入の仕方
第９回	施設実習の基本	・施設と保育所の違い ・施設実習の予備知識（VHS視聴）
第１０回	施設実習の応用	・日誌の書き方、施設実習の実際（VHS視聴）
第１１回	指導計画の作成	・全日実習指導案を事例をもとに作成
第１２回	指導計画の作成	・全日実習指導案を事例をもとに作成
第１３回	指導計画の作成	・部分実習案を事例をもとに作成 ・全日実習指導案を事例をもとに作成
第１４回	指導計画の作成	・部分実習指導案を事例をもとに作成
第１５回	指導計画の作成・現２年生の指導案の製本	・現２年生の指導案の製本？
定期試験	定期試験なし	
テキスト	実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド　　小櫃智子著　わかば社	
参考図書	保育所保育指針解説書、「保育実習の手引き」宮城県保育士養成校連絡協議会	
教員の評価方法	学習への関心・態度、指導案等の課題から総合的に評価する。	
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業後の課題、次時の予習に１時間取り組む。 ②模擬保育の指導案の返却と模擬授業を通して評価反省を行う。	

保育実習指導Ⅱ	２年 前期・後期 卒選　幼選　保必	形態 単位数	演習1単位	担当教員名	長沼 信子・佐藤 憲治・高橋 裕彦

授業の到達目標及びテーマ

① ﾃｰﾏ　：保育実習の意義・目的・実習の内容を理解し、課題を持ち、実習を体験し、新たな課題や目標を明確にする。

② 目標　・実習の意義と目的、内容を認識し、保育所・施設実習に必要な専門知識，援助技術を理解し、実習に生かすことができる。（３，４，５）

・保育実習への基本姿勢、実習に必要な書類や手続等についての理解を深める。（３，４，５）

・実習施設における子どもの人権と最善の利益を考慮し，プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。（３，４，８）

・保育実習を体験し、その反省を踏まえ、新たな課題や目標を明確にし、課題解決の学習に取り組んでいく。（３，４，５，６）

授業の概要

保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習目標・課題を明確にするととに、保育実習の位置づけ、各保育実習の福祉施設の目的や保育士の保育の基本・業務などを学び、実習に際して、事前・事中・事後においてなすべき内容を理解し、保育実習の全体を把握する。

授業計画

コマ	項　　目	内　　容
第１回	保育実習指導の概要のオリエンテーション 保育実習事前訪問の目的と方法	・保育実習指導の意義・目的・内容の理解 ・保育実習事前訪問の目的・方法・内容・心構え
第２回	模擬保育	・１年次作成した指導案を基に模擬保育を行う
第３回	模擬保育	・１年次に作成した指導案を基に模擬保育を行う
第４回	模擬保育	・１年次に作成した指導案を基に模擬保育を行う
第５回	実習調書の記入 実習直前指導	・実習調書その他の記入 ・各自の実習課題の確認・意義の明確化、実習に向けての最終確認
第６回	実習での基本姿勢・幼稚園との違い	・実習の心構えと実習先から求められる実習姿勢、検体容器の配布
第７回	実習での基本姿勢	・実習の心構えと実習先から求められる実習姿勢　実習先との打ち合わせ確認
第８回	施設実習での意義と内容１	・福祉施設の分類・各施設の特色と相違点
第９回	施設実習での意義と内容２	・施設実習の調書・その他記入
第１０回	保育実習事中指導	・保育実習Ⅰの反省（振り返り・反省）発表原稿の確認
第１１回	保育実習事中指導	・保育実習Ⅱの目標（保育実習Ⅰの反省を受けて保育実習Ⅱの目標）
第１２回	保育実習事中指導	・保育実習Ⅰの反省（反省・対策）発表
第１３回	保育実習事中指導	・保育実習Ⅰ班発表を聞いての感想発表　実習Ⅱに備える
第１４回	施設実習事前訪問の目的と方法	・実習先事前訪問の目的・方法・内容、心構え ・実習先の実習受け入れ体制
第１５回	保育実習Ⅱの目標・課題のとらえ方	・保育実習Ⅱについて　指導案・その他の準備物について
第１６回	保育実習事後指導	・保育実習事後指導（反省・感想・礼状の書き方）について
第１７回	施設実習の内容と方法	・勤務者としての心構え、見学・観察・参加・部分・全日実習について
第１８回	施設実習の内容と方法	・施設養護における処遇の展開、記録・日誌の意味と方法
第１９回	実習直前指導（施設）	・各自にとっての施設実習の意義の明確化 ・施設実習　実習直前指導　検体配付等
第２０回	事後指導	・実習で実践したことをまとめる。 （保育所・施設実習を終えての反省と感想、今後の課題と目標）
第２１回 第２２回	事後指導（実習情報交換会）	・１、２年生合同実習情報交換会（実習を終えての反省と感想）
第２３回	保育士資格申請書の書き方	・保育士資格申請書の書き方・自己評価カードの確認
定期試験	定期試験なし	
テキスト	「保育実習の手引き」宮城県保育士養成校連絡協議会	
参考図書	保育所保育指針解説書	
教員の評価方法	学習への関心・態度（３０％）、指導案、レポート、実習指導案等の課題の内容（７０％）により総合的に評価	
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業後の課題、次時の学習準備に1時間取り組む。 ②指導計画、指導案等の返却、実習後の反省を通して評価、反省を行う。	

保育実習Ⅰ	２年　前期 卒選　幼選　保必	形態 単位数	実習4単位	担当教員名	長沼 信子・佐藤 憲治・高橋 裕彦

授業(実習)の到達目標及びテーマ

① ﾃｰﾏ　：保育現場の実際に接し、子ども(利用者)の観察やかかわりを通して、子ども(利用者)への理解を深め、実習施設の役割や機能、保育士の役割や職務内容を具体的に理解する。

② 目標

1　保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。（３）

2　観察や子ども(利用者) とのかかわりを通して子ども(利用者)への理解を深める。(3,4,5,6,8)

3　既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。(3,4,5,6,8)

4　保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。（３，４，５，６）

5　保育士の職務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。（３，４，５，８）

授業(実習)の計画

◎保育実習Ⅰ・・・・・保育所実習（２単位）　　７月５日(月)～７月１６日(金)　１０日間

1　保育所の役割と機能	・保育所の生活と一日の流れ　・保育所保育指針の理解と保育の展開
2　子ども理解	・子どもの観察、記録による理解　・子どもの発達過程の理解　・子どもへの援助やかかわり
3　保育内容・保育環境	・保育の計画、発達過程に応じた保育内容　・子どもの生活・遊びと保育環境　・子どもの健康と安全
4　保育の計画、観察、記録	・保育課程・指導計画の理解と活用　・記録に基づく省察・自己評価
5　専門職としての保育士の役割と職業倫理	・保育士の職務内容　・職員間の役割分担や連携　・保育士の役割と職業倫理

◎保育実習Ⅰ・・・・・施設実習　（２単位）　　９月１４日(月)～９月２６日(土)　１０日間

1　施設の役割と機能	・施設の生活と一日の流れ　・施設の役割と機能
2　子ども(利用者)理解	・子ども(利用者)の観察、記録による理解　・個々の状態に応じた援助やかかわり
3　養護内容・生活環境	・計画に基づく活動や援助　・子ども(利用者)の心身の状態に応じた対応 ・子ども(利用者)の活動と生活の環境　・健康管理、安全対策の理解
4　計画、観察、記録	・支援計画の理解と活用　・記録に基づく省察・自己評価
5　専門職としての保育士の役割と職業倫理	・保育士の職務内容　・職員間の役割分担や連携　・保育士の役割と職業倫理

テキスト	「保育実習の手引き」宮城県保育士養成校連絡協議会　　保育所保育指針解説書
参考図書	実習日誌・実習指導案「パーフェクトガイド」わかば社
教員の評価方法	各実習先の実習評価(保育所・施設)、各実習日誌等を基にして評価
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①各授業（実習）の準備、振り返りに１時間取り組む。 ②保育の計画・指導案等を返却し、評価反省を行う。 ③課題について、保育実習時中指導でフィードバックする。

保育実習Ⅱ	2年　前期 卒選　幼選　保必	形態 単位数	実習２単位	担当教員名	長沼 信子・佐藤 憲治・高橋 裕彦

授業(実習)の到達目標及びテーマ

① ﾃｰﾏ　：これまで習得した教科全体の知識、技能を基にし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもに対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟する。

② 目標　１　保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。（３，４，５）

２　子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。（３，４，５）

３　既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。（3，4，5，6，8）

４　保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。（3，4，5，6，8）

５　保育士の職務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。（３，４，５，８）

６　保育士としての自己の課題を明確化する。（６）

授業(実習)の計画

◎保育実習Ⅱ・・・保育所実習（２単位）　　７月２６日(月)～８月６(金)　１０日間

１　保育所の役割や機能の具体的展開	・養護と教育が一体となる保育　・保育所の社会的役割と責任
２　観察に基づく保育理解	・子どもの心身の状態や活動の観察　・保育士等の動きや実践の観察　・生活の流れや展開の把握
３　子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携	・環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解　・保護者支援及び地域の子育て家庭への支援　・地域社会との連携
４　指導計画の作成、実践、記録、評価	・指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解　・作成した指導計画に基づく保育実践と評価
５　保育士の職務と職業倫理	・多様な保育の展開と保育士の職務　・多様な保育の展開と保育士の職業倫理
６　自己の課題の明確化	・保育士としての自己の課題の明確化

テキスト	「保育実習の手引き」宮城県保育士養成校連絡協議会　　保育所保育指針解説書
参考図書	実習日誌・実習指導案「パーフェクトガイド」　わかば社
教員の評価方法	実習先の実習評価、実習日誌等を基にして評価
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業（実習）の準備、振り返りに１時間取り組む。 ②指導計画・実践・自己評価を返却し、評価反省を行う。 ②実習巡回指導において、適宜フィードバックを実施する。